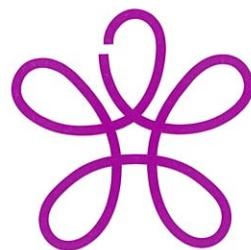


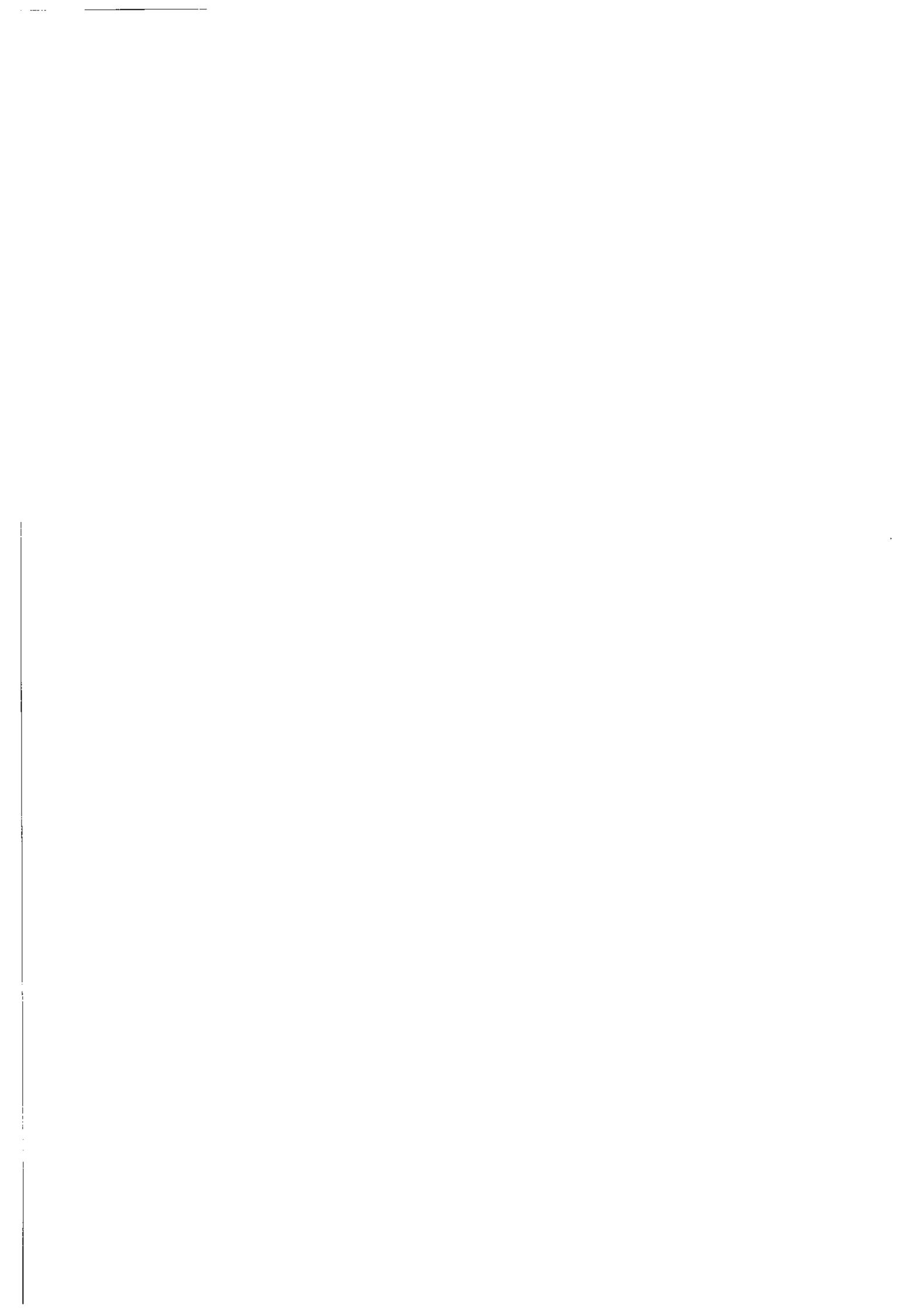
薬学部履修要項

2020

令和2年度 入学生用



近畿大学



近畿大学教育方針

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育理念」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を發揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これから時代に、本学が目指す社会的使命であります。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを開設し、全教職員が、学生の学問的、人間的成长とキャリア形成を支援します。

さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。

- 1 入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。
- 2 専門教育に携わっている教員が教養教育（共通教育科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。
- 3 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。
- 4 さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。
- 5 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを開設します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

- 1 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
- 2 聞いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
- 3 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
- 4 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

薬 学 部

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

薬学部では、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、薬学研究の発展に貢献できる人材を養成するとともに、有機化学、レギュラトリーサイエンス、ゲノム科学、*in silico* 創薬、細胞生物学などの最先端の薬学分野の知識とテクノロジーに精通し、医薬品の創製、開発などの分野で薬学研究者・技術者としてグローバルに活躍できる人材を社会に輩出するために、特色あるカリキュラムを提供します。

〈共通教養科目〉

医療人に求められる高い倫理観と使命感を醸成するための人文・社会系の科目とともに、専門科目の理解に必要な基礎学力を養う自然科学系の科目を提供します。また、少人数グループ討論授業により、受動的な学修態度を脱却し、能動的な学修姿勢を醸成します。これら教養系科目を充実させることによって、専門科目の学修に対するモチベーションを高めます。

〈外国語科目〉

医薬品開発や製薬業界のグローバル化・国際化が進展する中で、グローバルに活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による充実した語学教育プログラムを導入しています。

〈専門科目〉

臨床に直結する薬物治療等に関する科目に加えて、遺伝子治療や再生医療など高度先端医療に対応できる人材の養成をめざした最先端医療系科目を導入しています。また、基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するために、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬や*in silico* 分子設計学など最先端の講義と実習も導入しています。さらに、長期にわたる卒業研究を通し、問題発見能力・課題解決能力を養います。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

薬学部では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」及び「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）あるいは学士（薬科学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1 医療人としての使命感と倫理観

医療に関する高い倫理観と責任感を有し、薬剤師の資質を生かして社会に貢献する使命感を培っていること。

2 幅広い教養と医療に関する高度な知識

医療や人の健康に関する者として必要とされる広い教養と、医療薬学に関する高度な専門知識を修得していること。

3 高度な先進医療に対応できる臨床能力

基礎的な臨床に関する研究手技、高度で多様化する薬物治療に関する基本的技能を修得し、それらをチーム医療等医療現場において実践できる能力を有すること。

4 臨床における問題解決能力及び自己啓発力

薬剤師として臨床現場で発生するさまざまな問題に的確に対処し、解決する能力及び課題発見能力を修得するとともに、最新の医療について生涯にわたって学修し続ける意欲を有していること。

5 薬の創製に関わる研究者、技術者としての使命感と倫理観

生命に関する高い倫理観と責任感を有し、薬の創製に関わる研究者、技術者としての資質を生かして社会に貢献する使命感を培っていること。

6 論理的思考力とグローバル化に対応できる英語力

科学の進歩に対応できる論理的思考力を培うとともに、海外の最新の文献や情報を入手することでグローバル化に対応できる英語力を身につけていること。

7 幅広い教養と医薬品創製に関わる知識

医療や人の健康に関する者として必要とされる広い教養と創薬科学に関する高度な専門知識を修得していること。

8 最先端の創薬研究を推進できる能力

創薬における基本的な研究手法を修得し、さらに必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を有すること。

医療薬学科（平成27年度以降入学生）

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医療薬学科では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」ことを実現するため、以下のような方針で、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目、および本学独自の科目を年次に応じたカリキュラムとして配置しています。

1. 深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成するために、教養教育科目、基礎教育科目を充実し、幅広い視野と基礎学力の育成を図ります。
2. 国際化に対応できる人材を養成するために、教養教育科目の外国語に加え、医療英語、薬学英語に係る科目を充実させています。
3. 医療人としての倫理観と使命感の育成を図り、多職種連携に貢献できる薬剤師を養成するために、ヒューマニズムに関する科目および地域社会や医学部と連携した科目を導入しています。
4. 薬学に携わる者として必要な基礎的科学力を有した学生を養成するために、専門基礎科目を充実させています。
5. 薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、問題解決能力を有する薬剤師として活躍できる人材を養成するために、臨床関連科目および薬剤師実務関連科目を充実させています。
6. 優れたコミュニケーション能力を備えた薬剤師を養成するために、スマートグループディスカッション形式の授業を通して、科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力の育成を図ります。
7. 臨床における多種多様な問題の解決能力を育成するため、また、薬剤師の資質を活かして薬学研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材を養成するために、充実した卒業研究を実施しています。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

医療薬学科は、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、6年以上在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

1 関心・意欲・態度

- 1) 医療に関する高い倫理観と責任感を有し、薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献すべきであるという使命感を持ち続けること。
- 2) 患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を生涯にわたって持ち続けること。

2 思考・判断

- 1) 生命の尊さを認識し、医療における様々な問題について倫理的な判断ができること。
- 2) 医療専門職としての役割を理解し、合意に基づいて自主的、かつ協調的に行動できること。

3 技能・表現

- 1) 多職種連携を実践できるコミュニケーション能力を身につけること。
- 2) 高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけること。
- 3) 薬学分野における基本的な研究技術を有し、薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけること。

4 知識・理解

- 1) 医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養と、グローバル化に対応した言語力、自然科学に関する知識を身につけること。
- 2) 医療に関する様々な問題を理解するために、医療薬学分野の幅広い専門知識を身につけること。

薬学部・医療薬学科 カリキュラムマップ(平成30年度以降入学生)

DP1 関心・意欲・態度

- 1) 医療に関する高い倫理観と責任感を有し、薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献すべきであるという使命感を持ち続けること。
2) 患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を生涯にわたって持ち続けること。

DP2 思考・判断

- 1) 生命の尊さを認識し、医療における様々な問題について倫理的な判断ができる。
 - 2) 医療専門職としての役割を理解し、合意に基づいて自主的、かつ協調的に行動できる。

DP3 技能・表現

- ①多職種連携を実現できるコミュニケーション能力を身につけること。
 - ②高度で多様化する薬物療法に関する基本的技術を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけること。
 - ③薬学分野における基本的な研究技術を有し、薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけること。

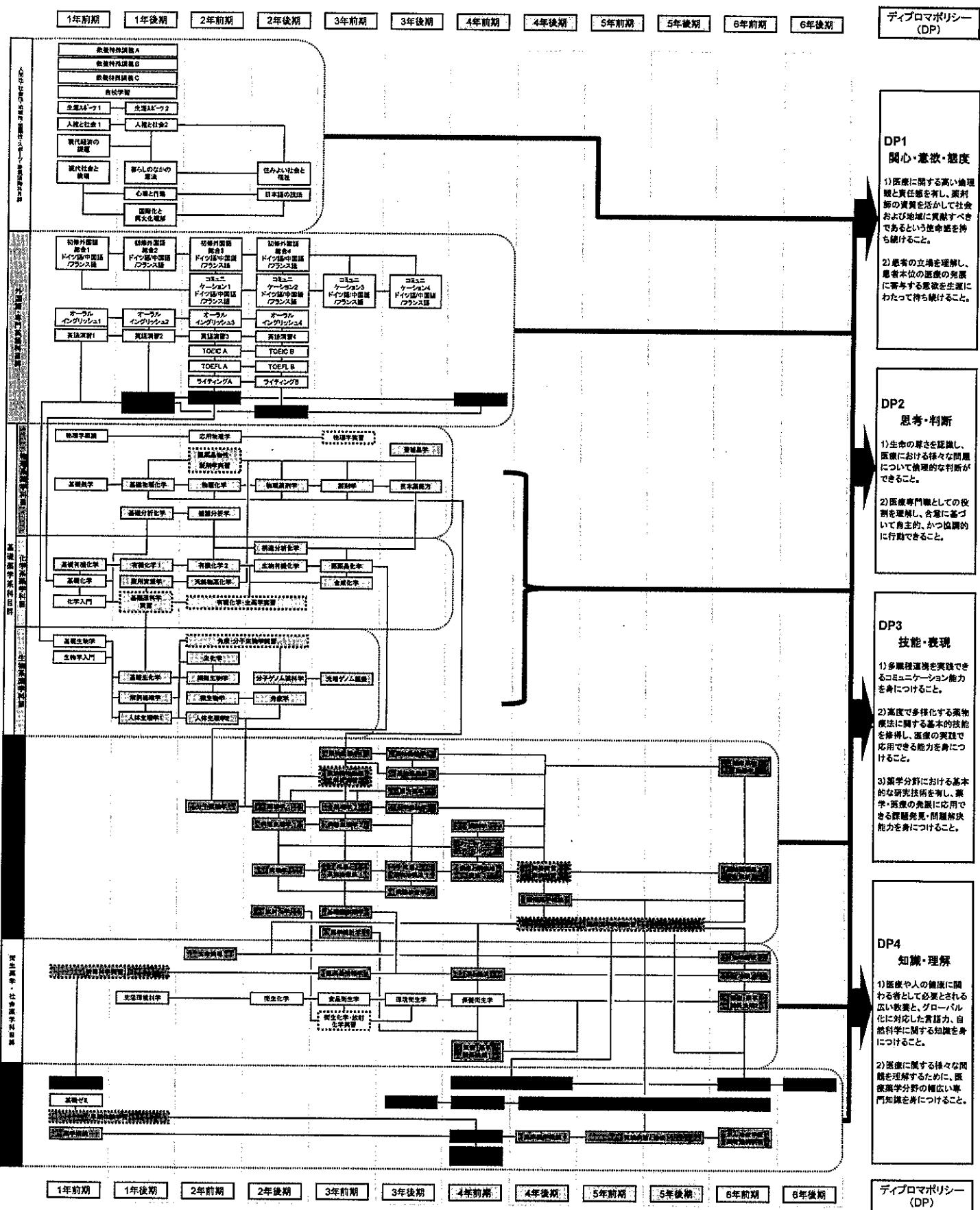
DP4 知識·理解

- 1) 医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養と、グローバル化に対応した言語力、自然科学に関する知識を身につけること。
2) 医療に関する様々な問題を理解するために、医療薬学分野の幅広い専門知識を身につけること。

区分	科目コード	科目名	単位数	選択・必修	開講時期	ディプロマポリシーに対する関与の程度(◎:密接に関与する、○:関与する)								
						DP1-1	DP1-2	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP3-3	DP4-1	DP4-2
専門科目Ⅰ群	生物系	211 解剖組織学	1.5	選択必修	1後		○						○	◎
		211 基礎生化学	1.5	選択必修	1後		○						○	◎
		211 人体生理学1	1.5	選択必修	1後		○						○	◎
		221 分子薬理学	1.5	選択必修	2前		○						○	◎
		321 人体生理学2	1.5	選択必修	2前		○						○	◎
		321 生化学生物学	1.5	選択必修	2前								○	◎
		221 微生物学	1.5	選択必修	2前								○	◎
		221 衛生化学	1.5	選択必修	2後								○	
		321 免疫学	1.5	選択必修	2後		○						○	◎
		221 分子ゲノム医学	1.5	選択必修	2後		○						○	◎
		331 先端ゲノム医療	1.5	選択必修	3前		○						○	◎
		231 環境衛生学	1.5	選択必修	3後								○	
		341 保健衛生学	1.5	選択必修	4前								○	
		211 薬学概論	1.5	必修	1前	◎	○	○						
専門科目Ⅱ群	必修科目	221 生命倫理	1.5	必修	2前	○	○							
		321 薬理学1	1.5	必修	2後									◎
		221 病理学	1.5	必修	2後					○				◎
		321 病態生理学1	1.5	必修	2後									◎
		331 疾患と薬物治療法1	1.5	必修	3前					○				◎
		231 基礎医療薬学	1.5	必修	3前		○						○	◎
		331 医薬品情報報学	1.5	必修	3前		○	○					○	◎
		331 薬物動態学1	1.5	必修	3前					○			○	◎
		231 医薬連携学習	1	必修	4前			○	◎			○		◎
		341 調剤学	1.5	必修	4前			○				○		◎
		341 ファーマシューティカルケア	1.5	必修	4前	○	○	○	◎					◎
		341 医療・薬事関係法規1	1.5	必修	4前	○								○
		441 薩摩医学概論	1.5	必修	4後					○	◎			○
		441 医療薬学総論	1.5	必修	4後			○	○					○
専門科目Ⅲ群	選択必修科目	451 実践病態と治療	1.5	必修	5通					○				◎
		461 臨床薬物動態学	1.5	必修	6前								○	◎
		461 地域医療	1.5	必修	6前	○								◎
		461 薬効薬理処方解析	1.5	必修	6前			○	○					◎
		221 放射化学会	1	選択必修	2後								○	◎
		331 薬理学	2	1.5	選択必修	3前				○				◎
		231 薬学統計学	1.5	選択必修	3前				○					◎
		331 病態生理学2	1.5	選択必修	3前									◎
		331 漢方薬学	1.5	選択必修	3後								○	○
		331 日本薬局方	1.5	選択必修	3後								○	○
		331 化学療法学	1.5	選択必修	3後								○	◎
		331 病態検査学	1.5	選択必修	3後					○	◎			○
		332 薬物速度論	1.5	選択必修	3後					○	○			○
		332 薬物動態学2	1.5	選択必修	3後					○	○			○
		332 疾患と薬物治療法2	1.5	選択必修	3後					○	○			○
専門英語	専門英語	341 疾患と薬物治療法3	1.5	選択必修	4前					○				◎
		341 薬と経済学	1.5	選択必修	4前	○							○	◎
		461 治験	1.5	選択必修	6前	○	○	○					○	○
自由選択	自由選択	461 医療・薬事関係法規2	1.5	選択必修	6前			○	◎					○
		461 がん治療学医薬看護師義	1.5	選択必修	6前			○					○	◎
		219 基礎生物学英語	1.5	選択必修	1後								○	○
実習・演習	実習・演習	229 基礎化学生物学英語	1.5	選択必修	2前								○	○
		229 生物学英語	1.5	選択必修	2後								○	○
		349 臨床薬学英語	1.5	選択必修	4前	○							○	○
		511 情報科学実習1	1	必修	1前					○			○	○
		512 情報科学実習2	1	必修	1後					○			○	○
		511 基礎薬科学実習	2	必修	1後								○	○
		511 早期体験学習	2	必修	1通	○	○							
		521 医薬品物性・製剤学実習	2	必修	2前								○	○
		521 免疫・分子生物学実習	2	必修	2通								○	○
		521 有機化学・生薬学実習	2	必修	2通								○	○
		531 衛生化学・放射化学実習	2	必修	3前	○	○						○	○
		531 薬効薬物動態解析実習	2	必修	3前								○	○
		531 総合薬学研究1	2	必修	3後								○	○
		541 総合薬学研究2	2	必修	4前								○	○
		541 フィジカルアセスメント	1	必修	4前					○	○			
		541 実務実習事前学習	7	必修	4後	○	○						○	
		541 総合演習	1	必修	4通		○						○	○
551 臨床薬学実務実習	551 臨床薬学実務実習	551 臨床薬学実務実習	20	必修	4後~5後	○	○							
		551 総合薬学研究3	4	必修	4後~6前								○	
		561 総合薬学演習4	4	必修	6前			○					○	○
		562 総合演習2	6	必修	6後			○					○	○

科目コード:	△	△	△
区分	学年	レベル	

薬学部 医療薬学科 カリキュラムツリー (平成 30 年度以降入学生)



***** 必修科目

ディプロマポリシー (DP)

創薬科学科（平成30年度以降入学生）

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創薬科学科では、医薬品の創製・開発や生命科学分野、医療産業において、日本のみならず、海外においてもグローバルに活躍できる人材を社会に輩出するための特色あるカリキュラムを提供しています。

具体的には、「有機化学、分析物理化学、薬物動態学、薬理学、生化学、分子生物学」を基軸とした医薬品の創製、体内動態、薬物作用機構、環境との相互作用等に関する徹底した基礎教育を行うとともに、「ゲノム創薬科学、プロテオミクス、*in silico* 創薬、メディシナルケミストリー、バイオサイエンス、病態検査学」など医薬分子と生命現象、疾病や病態との関わりを分子レベルから生体レベルまで解析する最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーに関する講義と実習を行います。

特に、強い探究心と高い倫理観を持ち、「問題発見能力」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「ディスカッション能力」に秀でた人材を育成すること、社会で通用する実践力の高いキャリア形成に主眼を置いています。また、創薬科学科のカリキュラムでは、早期から研究活動を展開するとともに、大学院薬学研究科における研究活動との関連性を重視し、学部と大学院修士課程が連携した高度な最先端の創薬・生命科学研究が可能です。

1 初年度から卒業まで継続した研究能力の育成と大学院への連携

初年度から研究活動を開始し、3年次から開始する卒業研究を通じ、問題発見能力・課題解決能力、論理性、倫理感を養い、より高度で専門性の高い知識と研究能力を修得するための、最先端の薬学研究プログラムを導入しています。卒業までに研究成果の学会発表を行うとともに、大学院薬学研究科との連携を通じ、よりレベルの高い研究能力の習得をめざします。

2 徹底した薬学基礎科目の学習と最先端の創薬・生命科学の講義と実習

基礎から発展まで幅広い創薬・生命科学研究に対応できる知識と科学技術、論理的思考能力を修得するために、有機合成化学や分析物理化学、生物化学、薬理学、環境衛生学等の薬学基礎科目の学修を徹底するとともに、ゲノム創薬科学やバイオテクノロジー、*in silico* 分子創薬設計学、免疫学、生物薬剤学、メディシナルケミストリー、バイオインフォマティクス、データアナリシスなど、製薬企業の創薬開発にも直結する最先端の講義と実習も導入しています。

3 グローバル化に対応できる充実した実践英語教育

医薬品開発や製薬業界のグローバル化が進展する中で、日本のみならず、海外においても国際的に活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による実践的な語学教育カリキュラムを導入することで、国際化に対応できる「英語力を強化」したプログラムを実施しています。特にオーラルイングリッシュの能力を強化し、海外での学会発表にも挑戦します。

4 コミュニケーション・プレゼンテーション能力の重視

初年度から、興味を持ったテーマに関するリサーチを行い、少人数グループ討論授業や成果発表により、受動的な学修態度を脱却し、能動的な学修姿勢を醸成します。これらのプロセスを通して、研究者として不可欠な〈コミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力〉を養成できる授業を開講しています。

5 充実した専門技術者育成プログラムとインターンシップ制度の導入によるキャリア形成

併設病院との連携のもと、臨床検査技師や放射線取扱技術者などの資格取得に向けたカリキュラ

ムを展開するとともに、低学年より、キャリアデザインについての講義や企業インターンシップを導入することにより、バイオ系理科系学士としてのキャリア形成プログラムを充実させています。また、様々な企業との連携によるインターンシップを積極的に導入し、社会で必要とされる協調性やリーダーシップを養成します。

6 学部間連携、产学（企業）連携による多彩な講義・演習科目の充実

薬学という専門分野を超えて、幅広い教養と学際的知識を修得する目的で、他学部・他学科において開講されている科目を履修しうる制度を設けるとともに、企業との連携、あるいは他学部との連携講座や演習科目を導入することにより、幅広い視野と新しい分野への挑戦意欲をもったリーダーシップの醸成を行います。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

創薬科学科では、「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、（原則として）4年以上在学し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（薬科学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1 関心・意欲・態度

- 1) 生命に関する高い倫理観と責任感を有すること。
- 2) 薬の創製や開発、管理、適性使用等に関わる研究者、技術者、医薬品情報担当者としての資質を活かして社会に貢献する使命感を培っていること。
- 3) 創薬・生命科学関連領域の進歩について生涯にわたり学修し、キャリア形成を続ける意欲を有していること。
- 4) 幅広い教養を身に付け、変遷する国際社会で活躍するために、主体性を持って新しい知識を得し、多様な職種の人材と協働的に学ぶ姿勢を身に付けていること。

2 思考・判断

- 1) 科学的思考に基づき、課題を探求し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を培っていること。
- 2) 医薬品等の創製・開発・管理・販売や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養を有すること。

3 技能・表現

- 1) グローバル社会で活躍するために、海外の最新の文献や情報を入手し、自らの意見を表現できる英語力を身につけていること。
- 2) 創薬における基本的な研究手法と技能を修得し、社会人として必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけていること。

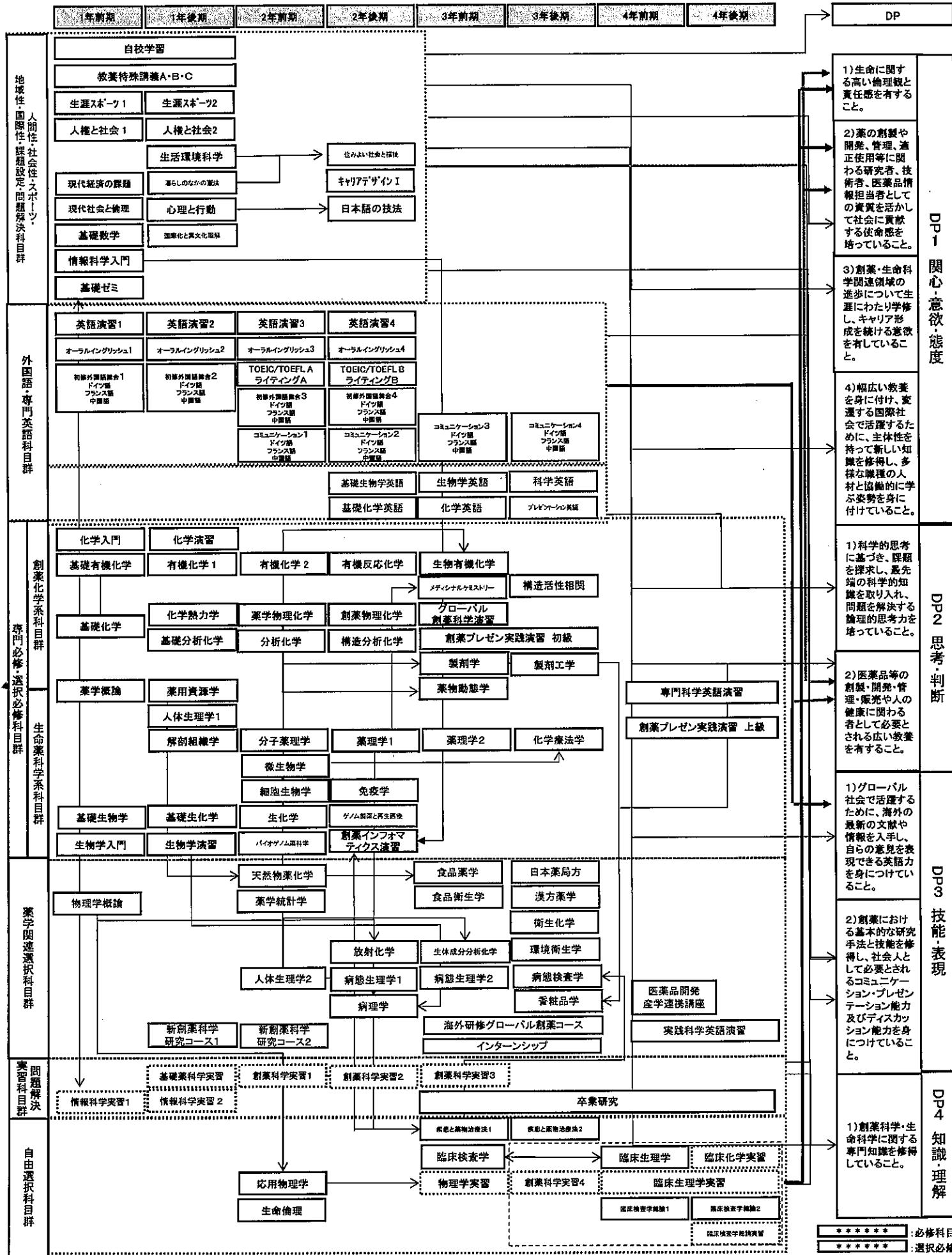
4 知識・理解

- 1) 創薬科学・生命科学に関する専門知識を修得していること。

薬学部・創薬科学科 カリキュラムマップ(平成30年度以降入学生)														
DP1 関心・意欲・態度														
1)生命に関する高い倫理観と責任感を有すること。														
2)薬の創製や開発・管理、適正使用等に関わる研究者、技術者、医薬品情報担当者としての資質を活かして社会に貢献する使命感を培っていること。														
3)創薬・生命科学関連領域の進歩について生涯にわたり学修し、キャリア形成を続ける意欲を有していること。														
4)幅広い教養を身に付け、変遷する国際社会で活躍するために、主体性を持って新しい知識を修得し、多様な職種の人材と協働的に学ぶ姿勢を身に付けていること。														
DP2 思考・判断														
1)科学的思考に基づき、課題を探求し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を培っていること。														
2)医薬品等の創製・開発・管理・販売や人の健康に関わる者として必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけていること。														
DP3 技能・表現														
1)グローバル社会で活躍するために、海外の最新の文献や情報を入手し、自らの意見を表現できる英語力を身につけていること。														
2)創薬における基本的な研究手法と技能を修得し、社会人として必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけていること。														
DP4 知識・理解														
1)創薬科学・生命科学に関する専門知識を修得していること。														
区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP1-4	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP4-1
人間性・社会性科目群	119 人権と社会1	2	選択	1前	○				○		○			
	119 人権と社会2	2	選択	1後	○				○		○			
	119 著らしのなかの憲法	2	選択	1後	○				○		○			
	119 現代社会と倫理	2	選択	1前	○				○		○			
	119 心理と行動	2	選択	1後					○	○	○			
	119 現代経済の課題	2	選択	1前					○					
	119 自校学習	2	選択	1通			○				○			
	129 住みよい社会と福祉	2	選択	2後	○						○			
	119 教養特殊講義A	2	選択	1通										
	119 國際化と異文化理解	2	選択	1後					○		○			
共通教養科目	119 生活環境科学	2	選択	1後			○				○			
	119 教養特殊講義B	2	選択	1通										
	119 基礎セミ	2	必修	1前		○								
	119 基礎数学	2	選択	1前					○		○			
	119 情報科学入門	2	選択	1前					○		○			
	129 キャリアアドバイスⅠ	1	必修	2後		○	○			○	○			
	129 日本語の技法	2	選択	2後						○	○			
	119 教養特殊講義C	2	選択	1通						○	○			
	119 生涯スポーツ1	1	必修	1前		○				○	○			
	119 生涯スポーツ2	1	必修	1後						○	○			
専門基礎	119 基礎化学	2	必修	1前							○			
	119 基礎生物学	2	必修	1前							○			
	119 化学入門	2	必修	1前							○			
	119 生物学入門	2	必修	1前							○			
	119 化学熱力学	2	必修	1後							○			
	119 基礎分析化学	2	必修	1後							○			
	11A 英語演習1	2	必修	1前								○		
	11A 英語演習2	2	必修	1後							○			
	12A 英語演習3	2	必修	2前							○			
	12A 英語演習4	2	必修	2後							○			
英語	11A オーラルイングリッシュ1	1	必修	1前								○		
	11A オーラルイングリッシュ2	1	必修	1後								○		
	12A オーラルイングリッシュ3	1	必修	2前								○		
	12A オーラルイングリッシュ4	1	必修	2後								○		
	12A TOEIC A	1	選択	2~4								○		
	12A TOEIC B	1	選択	2~4								○		
	12A TOEFL A	1	選択	2~4								○		
	12A TOEFL B	1	選択	2~4								○		
	12A ライティング A	1	選択	2~4								○		
	12A ライティング B	1	選択	2~4								○		
外国語 初修外国語	11A ドイツ語総合1	1	選択	1前								○		
	11A ドイツ語総合2	1	選択	1後								○		
	12A ドイツ語総合3	1	選択	2前								○		
	12A ドイツ語総合4	1	選択	2後								○		
	12A ドイツ語コミュニケーション1	1	選択	2前								○		
	12A ドイツ語コミュニケーション2	1	選択	2後								○		
	13A ドイツ語コミュニケーション3	1	選択	3~4								○		
	13A ドイツ語コミュニケーション4	1	選択	3~4								○		
	11A フランス語総合1	1	選択	1前								○		
	11A フランス語総合2	1	選択	1後								○		
中国語	12A フランス語総合3	1	選択	2前								○		
	12A フランス語総合4	1	選択	2後								○		
	12A フランス語コミュニケーション1	1	選択	2前								○		
	12A フランス語コミュニケーション2	1	選択	2後								○		
	13A フランス語コミュニケーション3	1	選択	3~4								○		
	13A フランス語コミュニケーション4	1	選択	3~4								○		
	11A 中国語総合1	1	選択	1前								○		
	11A 中国語総合2	1	選択	1後								○		
	12A 中国語総合3	1	選択	2前								○		
	12A 中国語総合4	1	選択	2後								○		
英語	12A 中国語コミュニケーション1	1	選択	2前								○		
	12A 中国語コミュニケーション2	1	選択	2後								○		
	13A 中国語コミュニケーション3	1	選択	3~4								○		
	13A 中国語コミュニケーション4	1	選択	3~4								○		

区分	科目コード	科目名	単位数	必修・選択	開講期	ティプロマポリシーに対する関与の程度(◎:密接に関与する、○:関与する)								
						DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP1-4	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	DP4-1
必修科目	211	薬学概論	1.5	必修	1前	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
	211	基礎有機化学	1.5	必修	1前					◎		○	○	○
	211	解剖組織学	1.5	必修	1後					◎		○	○	○
	211	薬用資源学	1.5	必修	1後					◎		○	○	○
	511	化学演習	1	必修	1後					○		○	○	○
	511	生物学演習	1	必修	1後					○		○	○	○
	311	有機化学1	1.5	必修	1後		○		○	○		○	○	○
	211	基礎生化学	1.5	必修	1後					○		○	○	○
	211	人体生理学1	1.5	必修	1後					○		○	○	○
	221	分子薬理学	1.5	必修	2前							○	○	○
	521	創薬インフォマティクス演習	1	必修	2後		○		○			○	○	○
	431	薬物動態学	1.5	必修	3前					○		○	○	○
	431	製剤学	1.5	必修	3前					○		○	○	○
	531	グローバル創薬科学演習	1	必修	3前		○		○		○	○	○	○
	531	創薬プレゼン実践演習 初級	1	必修	3通		○		○		○	○	○	○
	541	専門科学英語演習	1	必修	4通					○		○	○	○
	541	創薬プレゼン実践演習 上級	1	必修	4通					○		○	○	○
選択必修科目・創薬化学生	322	有機化学2	1.5	選択必修	2前		○		○		○	○	○	○
	322	薬学物理化学	1.5	選択必修	2前					○		○	○	○
	322	分析化学	1.5	選択必修	2前					○		○	○	○
	322	有機反応化学	1.5	選択必修	2後					○		○	○	○
	422	構造分析化学	1.5	選択必修	2後					○		○	○	○
	422	創薬物理化学	1.5	選択必修	2後					○		○	○	○
	432	生物有機化学	1.5	選択必修	3前					○		○	○	○
	432	メタシナラケミストリー	1.5	選択必修	3前					○		○	○	○
	432	製剤工学	1.5	選択必修	3後					○		○	○	○
	432	構造活性相関	1.5	選択必修	3後					○		○	○	○
選択必修科目・生命薬科学系	323	微生物学	1.5	選択必修	2前					○		○	○	○
	323	細胞生物学	1.5	選択必修	2前							○	○	○
	323	生化学	1.5	選択必修	2前							○	○	○
	323	バイオ・ゲノム薬科学	1.5	選択必修	2前		○		○			○	○	○
	323	薬理学1	1.5	選択必修	2後					○		○	○	○
	423	免疫学	1.5	選択必修	2後					○		○	○	○
	423	ゲノム創薬と再生医療	1.5	選択必修	2後		○	○				○	○	○
	333	薬理学2	1.5	選択必修	3前					○		○	○	○
	433	化学療法学	1.5	選択必修	3後					○		○	○	○
	214	物理学概論	1.5	選択	1前					○			○	○
専門科目Ⅰ	324	薬学統計学	1.5	選択	2前					○		○	○	○
	324	天然物薬化学	1.5	選択	2前					○		○	○	○
	434	食品薬学	1.5	選択	3前	○						○	○	○
	434	食品衛生学	1.5	選択	3前	○						○	○	○
	434	環境衛生学	1.5	選択	3後					○		○	○	○
	434	漢方薬学	1.5	選択	3後	○				○		○	○	○
	434	衛生化学	1.5	選択	3後					○		○	○	○
	434	日本薬局方	1.5	選択	3後					○		○	○	○
	225	人体生理学2	1.5	選択	2前					○		○	○	○
	325	病態生理学1	1.5	選択	2後	○				○		○	○	○
選択科目Ⅱ	325	放射化学	1.5	選択	2後					○		○	○	○
	325	病理学	1.5	選択	2後					○		○	○	○
	435	病態生理学2	1.5	選択	3前	○				○		○	○	○
	435	生体成分分析化学	1.5	選択	3前					○		○	○	○
	435	病態検査学	1.5	選択	3後					○		○	○	○
	516	新創薬学研究コース1	1.5	選択	1後		○	○					○	○
	526	新創薬学研究コース2	1.5	選択	2前			○					○	○
	536	インターンシップ	1.5	選択	3通		○	○	○			○		
	536	海外研修グローバル創薬コース	1.5	選択	3~4		○	○				○	○	○
	436	香粧品学	1.5	選択	3後					○	○		○	○
専門英語科目	546	医薬品開発産業連携講座	1.5	選択	4前					○			○	○
	546	実践科学英語演習	1	選択	4通							○	○	○
	227	基礎生物学英語	1.5	選択	2後					○		○	○	○
	227	基礎化学英語	1.5	選択	2後					○		○	○	○
	337	生物学英語	1.5	選択	3前					○		○	○	○
	337	化学英語	1.5	選択	3前					○		○	○	○
	437	科学英語	1.5	選択	3後					○		○	○	○
	437	プレゼンテーション英語	1.5	選択	3後		○	○			○	○	○	○
	320	応用物理学	1.5	選択	2前					○		○	○	○
	320	生命倫理	1.5	選択	2前		○						○	○
自由選択科目	530	物理学実習	1.5	選択	3前									
	430	疾患と薬物治療法1	1.5	選択	3前								○	○
	430	疾患と薬物治療法2	1.5	選択	3後								○	○
	430	臨床検査学	1.5	選択	3前					○			○	○
	430	臨床検査学総論1	2	選択	3前	○	○							
	430	創薬科学実習4	2	選択	3後		○	○					○	○
	430	臨床生理学	1.5	選択	3後	○	○							
	430	臨床検査学総論2	2	選択	3後	○	○							
	540	臨床検査学総論実習	4	選択	4通	○	○							
	440	臨床化学実習	3	選択	4通	○	○							
実習科目	540	臨床生理学実習	4	選択	4通	○	○							
	518	情報科学実習1	1	必修	1前					○		○	○	○
	518	情報科学実習2	1	必修	1後					○		○	○	○
	518	基礎薬学実習	2	必修	1後					○		○	○	○
	528	創薬科学実習1	2	必修	2前	○				○		○	○	○
	528	創薬科学実習2	3	必修	2後	○				○		○	○	○
	538	創薬科学実習3	5	必修	3前	○				○		○	○	○
	548	卒業研究	16	必修	3通+4通	○	○			○		○	○	○

薬学部 創薬科学科 カリキュラムツリー(平成30年度以降入学生)



はじめに

薬学部長

岩城正宏

本冊子は、皆さんのが薬学部で学ぶ上で留意すべき点を網羅した最も重要なガイドブックです。本冊子と同時に“シラバス”も参照し、慎重に履修計画を立て、しっかり学修してください。

薬学部では、卒業に要する単位数のみならず、各学年で取得すべき単位数も厳格に定められています。進級するには各学年で定められた必要な科目を履修し、所定の単位数を充足しなければなりません。履修の方法を誤ると単位不足のために留級という事態になりかねません。本冊子を熟読の上、不明な点や疑問点はアドバイザー教員や事務部職員に遠慮なく相談してください。

医療薬学科の授業科目は、高度な薬剤師を養成するための「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠して編成されており、基礎的な科目と薬剤師として必要な専門科目より構成されています。医学部と2つの近畿大学病院を擁する総合大学という本学の特長を生かして、医学部、原子力研究所等との連携を含む特徴のあるカリキュラム編成となっています。6年間の学修後、博士課程（4年制）においてさらに高度な臨床研究能力の研鑽が可能です。

創薬科学科の授業科目は、薬（医薬品業界）に関わる広範な科学についての学習に加え、薬学総合研究所等との連携により、機能性食品（食品業界）、香粧品（化粧品業界）も含め、人体に影響を与える物質を扱うあらゆる職域で活躍できる人材の育成を目的とした授業科目を編成しています。特に創薬（薬を創る）研究・開発のための基礎的な授業科目の編成に重点が置かれています。学修後、博士課程（前期課程2年、後期課程3年）において、さらに専門的で高度な研究能力の獲得が期待されます。

本冊子では、両学科に共通する項目と、それぞれの学科独自の項目に分けて、履修上重要な事項が説明されています。両学科のカリキュラムは、薬学の基礎から専門までを幅広く学修し、社会に出てからそれぞれの専門性を発揮できるように吟味されています。

学部共通科目として、1年次に化学入門と生物学入門が開講されますが、薬学の根幹をなす化学と生物学を勉強し直し、薬学を学修するスタートとなる基礎科目です。高校で化学または生物学を履修しなかった、あるいは入試で受験しなかったといった理由から、学力不足の人が毎年見受けられます。薬学部では、1年の前期にこれらの科目的「リメディアル授業」も開講しています。また、1年次前期に基礎ゼミが開講されます。基礎ゼミは通常の講義科目と異なり、皆さんのが主役をつとめ自分の意志を人に伝え主張するための能力を養成する科目です。小グループに分かれ、グループ内で相談や討論をしながら自ら決めたテーマをまとめて発表するユニークな科目です。基礎ゼミでは、アドバイザー教員との信頼関係を築くように努めてください。

医療薬学科では3年次後期、創薬科学科では3年前期から研究室に配属されて、卒業研究を開始します。卒業研究は、自分の能力を最大限に發揮して、卒業研究課題に挑戦する長期のプログラムです。卒業研究は、問題解決能力、論理的思考力やプレゼンテーション能力など、社会に出てから必要とされる能力に磨きをかけるための最も重要な学修の場です。卒業研究で、是非皆さんの力を開花させてほしいと思います。

医療薬学科の皆さんには、1年次に早期体験学習を受講します。病院・薬局見学や人体臓器観察などのバラエティーに富んだプログラムが準備されています。実践薬学に慣れ親しみ、「薬」という生命に関わる物質を扱うという職業観に少しでも早く目覚めていただきたいと思います。特に、4年次には医薬連携学習やフィジカルアセスメント実習などにより、高度な臨床現場に対応できる科目を配しています。さらに、4年次後期から5年次において11週間×2にわたって実施される臨床薬学実務実習は必修となっています。また、実務実習に先立ち、実習に取り組むための資格認定試験として共用試験〔CBT（薬学の基礎知識確認）とOSCE（技能と態度についての試験）〕が4年次後半に実施されます。OSCEおよび実務実習については臨床薬学部門教員が全面的にサポートします。また、CBTおよび薬剤師国家試験のために、教育専門部門の教員を中心とした徹底指導体制や自学自習のためのe-ラーニングシステムが準備されています。普段の学習が薬剤師国家試験に合格できる実力を養成するために重要です。

創薬科学科の皆さんには、1年次で薬学基礎科目を徹底的に学んだのち、2年次より創薬研究者としての専門性を深めるカリキュラムを用意しています。また、医薬品開発の国際化に対応できるよう、さらに国際学会で研究発表ができるよう実践的な英語科目が準備されていることも特徴です。特記すべきこととして、「特別科目等履修生制度」を導入し、成績優秀者については一定の条件を満たせば学部4年次に大学院博士前期課程において開講されている科目を履修することが可能になりました。

大学で専門的な知識・技能を身につけるには、自主的な学習（予習と復習）が極めて重要です。薬学部のカリキュラムも皆さんの予習・復習を前提として準備されています。本学の図書館以外に薬学部（39号館）1階や教育部門には、自習施設が完備されていますので、自由に勉強したり教員の指導を受けながら学習することができます。さらに、KUDOSには皆さんがいつでも自由に使用できる環境にあるコンピュータも準備されています。これらの環境を積極的に活用して、学修に努めてください。

薬学部では学修すべき科目が非常に多く、その範囲も多岐にわたっています。1年次および2年次では基礎科目と多くの薬学専門科目を履修しなければなりません。本学薬学部は1年次および2年次で学修すべきことが、特に多いカリキュラム構成になっています。日々怠ることのない研鑽が重要です。

なお、それぞれの科目的単位を取得するには、3分の2以上の出席が必要です。特に実習や演習科目では原則すべて出席しなければ単位が認定されません。

以上、本学薬学部における学修について全般的なことを取り上げて説明しました。本冊子を繰り返しよく読んで学修の指針としてください。

令和2年度 薬学部学年暦

月	日	(曜)	主　要　事　項	備　考
4	1	(水)	令和2年度 年度開始	
	1	(水)	英語プレイスメントテスト・オリエンテーション	新入生
	2	(木)	専門科目プレイスメントテスト・オリエンテーション	新入生
	4	(土)	入学式	新入生・保護者
			保護者対象説明会	保護者
			新入生歓迎会	新入生
	6	(月)	前期授業開始	
	{		履修登録〔在学生〕	Web 履修登録
	14	(火)		
	10	(金)	履修登録〔新入生〕	Web 履修登録
5	7	(木)	水曜日の授業を行います	
7	20	(月)	木曜日の授業を行います	
	25	(土)	補講日	
	28	(火)		
	{		前期定期試験（予定）	
8	5	(水)		
	6	(木)		
	{		夏期休暇	
9	11	(金)		
	(8月下旬)		成績（前期）通知	
	(9月上旬～中旬)		前期再試験	
	12	(土)	後期授業開始	
11	1	(日)		
	{		大学祭及び学部祭	休講
	4	(水)		
	5	(木)	創立記念日	
	25	(水)	月曜日の授業を行います	
12	24	(木)		
	{		冬期休暇	
1	7	(木)		
	8	(金)	後期授業再開	
	8	(金)	月曜日の授業を行います	
	15	(金)	土曜日の授業を行います	
	23	(土)		
	{		後期定期試験（予定）	
2	2	(火)		
	(2月下旬)		後期再試験	
	(3月上旬)		卒業該当者通知	
3	20	(土)	卒業式	
	(3月末)		成績・進級判定結果通知	
	31	(水)	令和2年度終了	

(注) 変更が生じたとき及び詳細については、その都度通知します。UNIPA 等で必ず確認してください。



目 次

I 薬学部の学修	
1 年間行事予定	1
2 授業科目の構成	1
3 単位制	1
4 科目の履修及び再履修登録	1
5 授業	2
6 試験	3
7 受験心得	4
8 成績評価	5
9 成績通知	5
10 GPA (Grade Point Average) 制度について	5
11 単位認定制度（共通教養科目・外国語科目）	7
12 欠席の取り扱い	7
13 教員免許	9
14 レポートにおける剽窃（盗用）行為（plagiarism）について	9
II 学修上の注意事項	
1 出席の重要性	10
2 提出期限の厳守	10
3 通知・案内の伝達方法	10
4 クラス編成	10
5 アドバイザー制度・学年相談員制度	10
6 UNIPAマイステップについて	11
7 定期健康診断	11
8 実習時の安全対策及び廃棄物処理	11
9 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い	11
III 学籍関係の概略	
1 学籍番号	13
2 身上異動届	13
3 退学・再入学	13
4 休学・復学	13
5 除籍・復籍	13
IV 中央図書館案内	14
医療薬学科	15
創薬科学科	43
研究室一覧	63
近畿大学校舎配置図	64



I 薬学部の学修

1 年間行事予定

頭書に示した「薬学部学年暦」は、年間の行事予定を示したもので、特別の事情がない限り予定どおり行われます。

行事の詳細については、決定次第随時通知しますので、常にUNIVERSAL PASSPORT等で確認してください。

2 授業科目の構成

授業科目は、共通教養科目・外国語科目・専門科目に大別されます。

3 単位制

本学における教育課程は単位制を採用しています。薬学部では単位制と学年制を併用しています。

単位は、授業科目の性質によって次のとおり定めています。(いずれの科目も1時限を制度上2時間として計算する。)

(1) 共通教養科目

毎週1時限の授業を前期(15週)又は後期(15週)で2単位【ただし、生涯スポーツ、キャリアデザインⅠは1単位】

(2) 外国語科目

毎週1時限の授業を前期(15週)又は後期(15週)で1単位(毎週2時限の場合は2単位)

(3) 専門科目

毎週1時限の授業を前期(15週)又は後期(15週)で1.5単位(10週の場合は1単位)

(4) 演習・実習科目

前期又は後期に30時間実施で1単位

4 科目の履修及び再履修登録

(1) 科目の履修

ア 科目の履修は、履修計画・履修登録・授業出席・試験の過程を経て合格点を得た場合に単位が認定されます。

イ 履修は、当該年次に配当された科目を履修する「通常履修」と、過年度において修得できなかつた科目を再度履修する「再履修」とに分けられます。

ウ 留年をして当該年次配当科目を受講する場合は、「再履修」ではなく、「通常履修」となります。

エ 未修得科目を残したまま進級すると、当該年次配当科目の「通常履修」と修得が必要な下級年次配当科目の「再履修」が時間割上重複することが多いので、当該年次に必ず修得してください。

オ 留年をした場合、直上級年次配当科目を履修できる制度があります。この場合、単位の認定は進級した年度となります。詳細については留年者対象のガイダンスで説明します。

ただし、創薬科学科生には適用されません。

カ 創薬科学科生の臨床検査技師国家試験受験資格取得には、指定された科目を履修する必要があります。詳細についてはガイダンスで説明します。

(2) 履修登録

ア 各年次の初めに履修すべき科目を自分で決め、所定の手続きにより履修の登録（履修届）をしなければなりません。

イ 登録することにより、その科目を履修することができます。したがって、各年度初めの指定期間内に行われる履修登録は、非常に重要な手続きですから、定められた期間内に本人がこれを行わなければなりません。

万一期間に内にこの手続きを怠った場合は、その年度の履修は一切認められなくなります。

ウ 履修登録は、すべて各自の責任において行い、正当な理由なく履修を放棄（長期欠席・受験放棄など）することのないよう努めなければなりません。

エ 履修登録の期日及び詳細については、別途通知します。

オ 指定期間外の履修科目の追加・変更・取消は認められません。

カ 履修登録をしなかった科目については、たとえ受講や受験をしたとしても単位の認定を受けることはできません。

キ 履修科目を決める場合の注意事項

(ア) 重複登録（履修）の禁止

同一曜日で同一時間に2科目以上を重複して登録（履修）することはできません。

(イ) 修得科目の履修の禁止

前年度までに履修し、単位を修得した科目を、再度登録（履修）することはできません。

(ウ) 必修科目的履修

必修科目は、指定された年次において必ず履修登録を行い、単位を修得しなければなりません。

修得できなかった場合は、原則として翌年度に再履修しなければなりません。

(エ) 履修科目数の上限（CAP制）

履修できる科目数には、下記のとおり制限があります。

平成27年度以降入学生

各学年における最大履修科目数（実習・演習科目群、教職科目を除く）は、自由選択科目を含めて以下のとおりとする。ただし、医療薬学科留年生については別途定めるものとする。

学 年		1	2	3	4	5	6
医療薬学科	前期	18	23	17	12	5	10
	後期	18	24	13	6	5	4
創薬科学科	前期	19	18	15	8	4	4
	後期	20	19	11	5	4	4

ク その他の注意

留年をした場合は、原則として入学年度の履修規程が適用されます。（ただし、1年次及び修得科目数によっては、当該年次の履修規程を適用します。）

規程が大幅に改定された場合は、思わぬ負担を負うことがありますので十分注意してください。

5 授 業

(1) 授業を受ける心構え

大学での学修は学生個人がそれぞれの個性と志向に応じて勉学の目標を定め、各自の学修方針に基づいて履修登録をした科目を受講します。その際単位制の本質から、単に授業に出席するだけでなく、毎時間の授業について自主的な学習が必要です。

授業中は私語をせず、携帯電話等の電源を切っておく等、十分注意して、各自責任をもって受講してください。

(2) 授業時間（1 時限：90 分）

第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目
9：00～10：30	10：45～12：15	13：15～14：45	15：00～16：30	16：45～18：15

(3) 補講・集中講義

ア 補講

休講となった講義及び所定時間数に達しない科目については、土曜日又は同一期内の可能な時間に補充講義を行います。

イ 集中講義

科目によっては、ある一定期間に集中して講義を行います。

6 試験

試験には、定期試験・追試験・再試験・再々試験・中間試験があります。いずれの試験も授業に3分の2以上出席し、受講した者に受験資格が認められます。

(1) 定期試験

ア 定期試験とは、前期末（7月下旬～8月上旬）と後期末（1月下旬～2月上旬）に行う試験をいいます。

イ 定期試験時間割は、試験開始の2週間前までに通知します。通知後も変更されることがありますから、試験日、時間、教室等を試験前に再度確認するよう心掛けてください。

ウ 定期試験時間（1 時限：60 分）

第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目
9：30～10：30	11：00～12：00	13：30～14：30	15：00～16：00	16：45～17：45

(2) 追試験

ア 追試験とは、定期試験及び定期試験に準ずる試験を「正当な理由により受験できなかった」と教授会で認められた場合に限り後日実施する試験をいいます。追試験は、当該科目の再試験と同時に実施し、原則として、追試験の再試験は行いません。

イ 追試験の受験申請は、当該試験最終欠席日を含め2日以内に申し出てください。申し出のあった者に限り、当該試験最終欠席日を含め5日以内に診断書又は正当な理由を確認できる証明書等を添付し、所定の用紙により申請手続きを行うことができます。

（期限までに申し出がない場合は、手続き及び受験はできません。）

ウ 所定の用紙は薬学部事務部にあります。

(3) 再試験（専門科目及び共通教養科目の専門基礎科目）

ア 再試験とは、専門科目、専門基礎科目及び一部の自由選択科目（注）の単位が修得できなかった場合に、試験の機会を再度与えて行う試験をいいます。再試験の実施時期は当該年次配当の前期終了科目は9月上旬、後期終了科目は2月下旬に実施します。原則として、再試験の追試験は行いません。

（注）創薬科学科の自由選択科目のうち臨床検査技師国家試験受験資格関連科目（ただし、医学部実施科目群は医学部の規程に準ずる。）

イ 再試験受験資格は、定期試験を受験し、その成績が30点以上60点未満の者に限り与えられます。

ウ 再試験における受験科目数は、前期及び後期各5科目を限度とします。

エ 再試験を希望するときは、再試験受験申請書に必要事項を記入し、指定された日時までに受験料

を納付した申込書を添え薬学部事務部で手続きを完了してください。

ただし、実習科目及び一部の演習科目は再試験を行いません。

オ 「再試験受験申請書」（用紙）は薬学部事務部に請求してください。

カ 進級した者で、その前年に受講・受験（定期試験）したが、単位を修得できなかった科目（下級年次配当科目）について、再度、1回のみ機会を与えて試験（再々試験）を行う制度があります。

ただし、当該年次科目の時間割と重複し、再履修することができない科目に限ります。

また、実施時期は、当該科目（下級年次配当）の定期試験実施時とします。

なお、定期試験再試験における30点以上60点未満の受験資格は適用されません。

創薬科学科生（平成29年度以前入学者）は当該年次外国語科目と重複した場合にのみ適用されます。

- (4) 中間試験及び確認演習は（欠席後2日以内に科目担当者に申し出れば、追試験を行う場合があります。）
科目の担当者が学期の途中に必要に応じて行う試験及び演習をいいます。

7 受験心得

試験は、単位修得の閾門であり、日頃の学業の成果を發揮するための機会です。真剣に臨んでください。

受験に当たっては、下記の注意事項を熟読のうえ、周到な準備と厳正な態度で試験に臨むことが肝要です。

(1) 一般事項

ア 指定された座席で受験すること。

イ 学生証は机上の通路側に置くこと。学生証を携帯しないものは受験できない。ここに学生証というものは、近畿大学が交付した学生証のみをいい、その他の身分証明書等によっては受験できないので注意すること。

ウ 学生証を忘れた場合は、直ちに薬学部事務部で「仮学生証」の発行を得て受験すること。仮学生証は使用後当日中に必ず返却しなければならない。未返却の場合は仮学生証を用いて受験した科目は無効となる。

エ 体調不良等、特別な事情がない限り試験中の入退室はできない。

オ 試験開始後の入室はできない。なお、試験開始後20分以上遅刻した者のうち、交通事故その他やむを得ない事情があり、その事実を証明できる書類を提出した者に限り所定の手続きを経て、追試験受験資格を認める。

カ 答案用紙に学部・学科・学年・学籍番号・氏名が記入されていないと無効となる。

キ 解答用紙は原則として再配布しない。また、答案用紙は試験場より持ち出してはならない。

ク 答案用紙は監督者が指示する方法に従って提出し、答案回収が完了するまで静かに待機する。

ケ 試験場における行動については監督者の指示に従うこと。

コ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・時計（時計機能だけのもの）・学生証以外の物は、カバン等に入れ、カバンの封をし、指示された場所に置く。ただし当該試験において参照・使用を可とする物品についてはこの限りでない。

サ 腕時計の利用は認めるが、必ず腕から外して机上に置き、試験中に触れてはならない。

シ 携帯電話・スマートフォン・PHS・電子辞書等の携帯は認めない。またそれらの電源を必ず切つてカバン等に入れること。

ス 帽子、コートやジャンパー、膝掛類を着用したまま受験しないこと。

(2) 不正行為

薬学部では次のような行為は不正行為になり、学則第四十一条によって処分されます。

また、その不正行為が摘発された時からその試験期間中の受験資格を剥奪し、その試験期間受験していた科目はすべて無効になります。

- ア 教科書、参考書、ノート、カンニングペーパー・携帯機器またはこれに類するものを盗み見ること。但し当該試験において参照を可と指定された物品についてはこの限りでない。
- イ 他人の答案を盗み見ること、並びに、答案を他人の窃用に供する意図で他人の閲覧できる状態に置くこと。
- ウ 試験中に他人の物件を貸借すること。
- エ 試験に関することを机などに書き込んでおいたり、カンニングペーパー・携帯機器またはこれに類するものなどを所持すること。
- オ 本人に代わって他の者が受験すること。
- カ その他、試験の公正を害する行為をすること。

8 成績評価

- (1) 成績は 100 点満点で評価され、60 点以上が合格となります。
- (2) 成績評価は、秀（100 点～90 点）、優（89 点～80 点）、良（79 点～70 点）、可（69 点～60 点）、不可（59 点以下）で表示されます。なお、科目によっては、「合格」又は「不合格」によって表示される場合があります。
成績証明書については、秀・優・良・可を用いて表記し、UNIVERSAL PASSPORT 上では実点も表記されます。
- (3) 再試験・再々試験の評価は最高 60 点とします。
- (4) 一度合格した科目の評価を取り消して、再び当該科目を履修することは認められません。
- (5) 修得した科目（単位）の成績評価は、UNIVERSAL PASSPORT より閲覧できます。過去に修得した科目の成績がすべて記載されています。
- (6) 不合格になった科目で修得の必要なものは、原則として、翌年度に再履修しなければなりません。
- (7) 成績について不審な点がある場合は、指定された期日までに UNIVERSAL PASSPORT より照会手続きを行ってください。

9 成績通知

平成 30 年度後期より、学生・保護者へは UNIVERSAL PASSPORT にて成績を通知しています。
また教育指導の徹底のため、必要な場合にはアドバイザー教員も担当学生の成績を参照します。
個人情報保護法が施行され、個人情報の保護については細心の注意を払わねばなりませんが、薬学部としてあらゆる角度から総合勘案した結果、アドバイザー及び保証人に成績を開示することにしています。これに同意できない特別な理由、事情がある場合は、アドバイザー教員又は薬学部事務部まで事前に申し出てください。

10 GPA (Grade Point Average) 制度について

近畿大学では、100 点満点の成績評価に対応させて、成績評価の指標として GPA (グレード・ポイント・アベレージ) 制度を施行しています。GPA とは、100 点満点の実点を 5 段階の GP に置き換え、その科目の単位数と関連させて GP の平均値を算出した、最高点 4 点から最低点 0 点までの数値です。

GPA 制度の意義は、GPA や GP によって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができます。GPA を意識することで、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができるのです。

GPA は欧米の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のクローバル化に対応する制度です。すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。

(1) GPA 値の計算方法

GPA は以下の数値と計算式で算出されます。

実点評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受験
5段階評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP グレード・ポイント	4	3	2	1	0	0

$$GPA = \frac{((\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目のGP})) \text{ の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※ GPA 算出の具体例

科目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
単位数	1	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2
実 点	83	65	82	58	92	74	80	68	90	不受	85
GP	3	1	3	0	4	2	3	1	4	0	3

$$GPA = \frac{1 \times 3 + 2 \times 1 + 1 \times 3 + 2 \times 0 + 2 \times 4 + 2 \times 2 + 2 \times 3 + 1 \times 1 + 2 \times 4 + 2 \times 0 + 2 \times 3}{1 + 2 + 1 + 2 + 2 + 2 + 2 + 1 + 2 + 2 + 2}$$

$$= \frac{41}{19} = 2.2 \text{ (小数第2位を四捨五入)}$$

- ☞ 実点は当該科目の点数を表します。
- ☞ GPA は小数第2位を四捨五入して、表記は少數第1位までとします。
- ☞ GPA の最高点は4点、最低点は0点になります。
- ☞ GPA の計算式には、GP 対象外科目（下記表参照）および認定科目（実点で成績を出さない科目）は含まれません。

学 科	医療薬学科	創薬科学科
基 础 ゼ ミ 自 由 選 択 科 目		
GP 対象外科目		
	臨床薬学実務実習 総合薬学演習 総合演習2 総合薬学研究1・2・3	卒 業 研 究

- ☞ 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を取得した場合でも、通算の GPA には過去の0点が算入されます。
- ☞ 進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

(2) 履修取り下げについて

履修登録後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。

ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続き方法は、別途掲示します。

(3) GPA 制度の活用

GPA の意義は、その値を自分の履修計画と学修状況を測る指標として活用する点にあります。以下のような点に留意して、GPA 値を高めることに努めてください。

- ア 履修登録科目について熟慮し、登録科目についてはしっかりと勉学をして試験において不可をとらないこと。
- イ 不受験科目をなくすこと。そのために、履修放棄をする科目については「履修取り下げ期間」中に必ず「履修取り下げ」を行うこと。
- ウ 成績通知書の GPA 値あるいは各科目の GP 値を確認して自分の履修計画、学修状況を反省し、克服するべき課題を自覚すること。

11 単位認定制度（共通教養科目・外国語科目）

- (1) 近畿大学薬学部入学以前に、他大学で修得した科目のうち、共通教養科目の一部及び外国語科目については、審査のうえ、単位を認定する制度があります。
- (2) 単位認定を希望するときは、指定された期間に、必要書類（成績証明書等）を添えて、薬学部事務部で所定の手続きを完了してください。

12 欠席の取り扱い

(1) 講義の欠席

① 適用範囲、証明書類及び日数

欠席事由	必要証明書類等	認可日数
a 傷病等による入院又は学校保健安全法施行規則第 18 条に定めた学校感染症（別表・）	医師診断書 **	1 教科 3 日まで ***
b 天災・交通機関等の事故	事故証明書	当該日のみ
c 申請者の父母、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子女が危篤状態の場合 (申請者の保護者が前記以外の場合はこれに準ずる)	原則として保護者の証明書	2 日
d 申請者の父母、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子女が死亡の場合 (申請者の保護者が前記以外の場合はこれに準ずる)	死亡通知等の関係書面もしくは保護者の証明書	3 日
e 前記 c 又は d に該当する場合で、危篤に落ち入った者又は死亡者の居住地が遠隔地のため、又は特別の事情からなお多くの日数を要する場合はその旨学部長に申請し、許可を得れば公認欠席日数を延長することができる。	原則として保護者の証明書	延長 2 日以内
f 大学院入学試験	当該大学院の受験票等日時を証明できるもの	年間 3 日以内
g 就職試験および内定式（インターンシップは含まない）	日時等を証明できるもの	許可日
h その他 自治会活動等特別な事情があり、学部長の許可を得た場合	その事由を証明できる書類	5 日

* 別表

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9）
第二種	インフルエンザ、百日咳、麻しん（はしか）流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

第三種 その他の感染症の例（条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる感染症）：溶連菌感染症、手足口病、ウイルス性肝炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑（りんご病）、マイコプラズマ感染症、流行性嘔吐下痢症（ロタウイルス・ノロウイルス）などの感染性または病原性の強い疾病については、病因が明記された診断書を添えて申請することで、担当者協議の上で公認欠席を認めることがある。

** 医師診断書には入院または出席停止期間の開始日と終了日が必ず明記されていること。

*** 入院については診断書に記載の期間、学校伝染病については学校保健安全法施行規則第19条に定める出席停止期間に従うこと。

② 申請要領

- ア 申請者は、薬学部事務部にて所定の「欠席届（用紙）」を受け取る。（学生証・必要証明書類の提示が必要）
イ 申請者は必要事項を記入し、捺印のうえアドバイザーの許可印を受けて、原則として当該最終欠席日を含めて5日以内に薬学部事務部へ提出する。 （必要証明書類の添付が必要）

③ 公認欠席日数の上限

上記の「欠席届」により公認欠席と認められても、その欠席日数は1教科につき講義回数の5分の1を限度とする。ただし、g就職試験は除く。

(2) 試験の欠席

① 適用範囲及び証明書類

前記「(1) 講義の欠席」①の欠席事由a～hおよび、他の傷病により医師が定期試験の受験を困難と判断した場合は、追試験の対象とするので、欠席事由・期間が明記された医師の診断書を添えて下記②の申請要領に従って申請すること。

また、上記事由であっても再試験及び再々試験を欠席した場合は、再履修扱いとする。

② 申請要領

ア 申請者は必ず当該試験最終欠席日を含め2日以内に欠席の申し出をすること。

イ 申請者（手続きを許可された者）は薬学部事務部にて所定の「欠席届（用紙）」を受け取る。
(学生証・必要証明書類の提示が必要)

ウ 申請者（手続きを許可された者）は必要事項を記入し、捺印のうえアドバイザーの許可印を受けて、指示された期限までに薬学部事務部へ提出する。 （必要証明書類の添付が必要）

エ 申請者は薬学部事務部にて実施方法等の指示を受けると同時に「追・再試験受験申請書」を受け取る。

オ 申請者は追・再試験受験申請書に必要事項を記入し、受験料（1科目につき1,000円・申込書添付）を添えて薬学部事務部に提出する。

カ 申請者は指定の日時・方法にて受験する。

③ 申請の認可

「追・再試験受験申請書」および「欠席届」を薬学部事務部へ提出後、学部長、教務委員長、事務部による審議の上で不適合であると判断された場合、追試験受験を認可しない場合がある。

13 教員免許

中学校または高等学校の理科教員免許を取得することができます。詳細は教職教育部に問い合わせてください。

14 レポートにおける剽窃（ひょうせつ）（盗用）行為（plagiarism）について

“剽窃”とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。友人が書いたレポート等を写す行為は剽窃ですし、ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為、いわゆる「コピペ」も剽窃です。他人のテキストを自分で入力しても剽窃になります。剽窃は倫理に反することであり、著作権を侵害するなど法に触れる場合もあります。剽窃は学生として絶対に行ってはいけない不正行為なのです。

近畿大学では、剽窃に対してカンニングと同様に厳正に対処します。米国の大学等では cheating（カンニング）と同じ扱いになり、剽窃を行ったレポートが判明すると、即座に退学させられる場合もあります。ただ、処罰対象になるからやってはいけない、ということではありません。あくまで、剽窃は倫理に反する行為、不正行為だということです。

一方で、レポートを作成するときには、様々な文献を引用することができます。様々な文献を引用することは、レポートを作成する上で重要なことです。「引用」と「剽窃・盗用」は全く異なります。文献等を引用する際に大事なことは、「自分の文章と他人の文章をレポートの中で明確に区別する」ということです。なお、引用は明確に示すこと（明瞭区別性）はもちろん、引用が従であること（主従関係）、出典を明示することなど厳格なルールが存在します。引用ルールの詳細については、近畿大学中央図書館学修サポート (https://www.clib.kindai.ac.jp/search/study_support.html) の「レポートの書き方」や「ダメなコピペ・パクリ ≠ 「剽窃（ひょうせつ）」について」などを参照してください。

レポートに書いた文章は、それを書いた人の大事な自己表現です。レポートや試験でも自分の文章に誇りを持ち、剽窃などせず、自分自身の個性を存分に發揮してください。

II 学修上の注意事項

1 出席の重要性

薬学部では、特に出席を重視します。講義・実習の出席のみならず、諸行事にも必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合は、所定の様式により欠席届を提出しなければなりません。詳細は、薬学部事務部に照会してください。

原則として講義回数の3分の2以上の出席がなければ当該科目の試験を受ける資格がありません。

なお、実習・演習科目の単位修得については全出席が原則です。実習等を欠席した場合には、診断書等の証明書を提示して事務部にて所定の手続きを行い、実習担当者に相談してください。

2 提出期限の厳守

レポートその他学修に関する届等の提出期限は、厳守しなければ無効となります。

3 通知・案内の伝達方法

(1) 学生への通知は、「UNIVERSAL PASSPORTへの掲載」によって行われますから、常にUNIVERSAL PASSPORTを見るよう心掛けてください。

通知を確認しないことによって、思わぬ不利を招くことがありますので、十分注意してください。

(2) 休講・補講等の講義情報はUNIVERSAL PASSPORTに掲載されるとともに、大学が付与したメールアドレス（学籍番号+アルファベット@kindai.ac.jp）にも配信されます。転送先（携帯電話・スマートフォンなどのメールアドレス）を設定するなど、常にメールを確認するよう心掛けてください。

4 クラス編成

科目によっては、その年次の学生をいくつかのクラスに分けることがあります。この場合は授業時間割表等により指示されます。

5 アドバイザー制度・学年相談員制度

薬学部では入学時に、全入学生を研究室、教育専門部門、臨床薬学部門及び薬学総合研究所の各教員に振り分けます。アドバイザー教員に学修上の問題や個人生活上の問題、その他何でも遠慮なく相談してください。

また薬学部では、大学生活やメンタルヘルスなど皆さんが抱える問題の相談窓口として相談員制度を設けました。悩みを抱えたままでは、学業や様々な課題に取り組むゆとりが生まれません。友達にもアドバイザーにも相談しづらい悩みを抱えておられる方は、積極的に利用してください。

学年毎に2名の相談員を配置していますので、気軽に相談してください。

1年生	島田 紘明 〈生物薬剤学（39号館9階）〉	shimada@phar.kindai.ac.jp
	大竹 裕子 〈製剤学（39号館9階）〉	hotake@phar.kindai.ac.jp
2年生	中村 光 〈医薬品化学（38号館10階）〉	anakamura@phar.kindai.ac.jp
	坪田 真帆 〈病態薬理学（39号館9階）〉	maho@phar.kindai.ac.jp
3年生	三田村邦子 〈病態分子解析学（38号館10階）〉	mitamura@phar.kindai.ac.jp
	緒方 文彦 〈公衆衛生学（38号館9階）〉	ogata@phar.kindai.ac.jp
4～6年生	西脇 敬二 〈創薬分子設計学（38号館9階）〉	k-nishi@phar.kindai.ac.jp
	井上 知美 〈臨床薬学部門（医療薬剤学分野）（39号館6階）〉	tinoue@phar.kindai.ac.jp

6 UNIPAマイステップについて

中長期的な視野を念頭において、当面の取り組みや課題を整理することで目的意識を維持し、学生生活を計画的に過ごすことができるよう、勉学・社会体験等の目標・実行計画を立て、その実施状況や到達等を検証するための指針です。アドバイザー教員との相談や指導を受ける際に活用してください。

7 定期健康診断

年度初めに行われる定期健康診断は、必ず受けなければなりません。疾病その他やむを得ない事由により、定期健康診断を受けることができなかった場合には、速やかにメディカルサポートセンター（11月ホール3階）に届け出て、指示を受けてください。

8 実習時の安全対策及び廃棄物処理

- (1) 入学時に配布する「安全要覧」を熟読のうえ、実習に臨んでください。万一事故が発生した時は、実習担当教員に速やかに連絡し、その指示に従ってください。
- (2) 実習及び研究を行う際には、安全メガネ及び白衣を着用するなど安全に留意してください。
- (3) 有害物質の廃棄についても、「安全要覧」に記載されていますが、不明な点については、実習担当者又は研究室の教員の指示を受けてください。

9 気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い

暴風警報等が発表された場合及び台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、授業の取扱いについては、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき以下のとおりとします。ただし、居住されている地域の被災により避難指示（緊急）・避難勧告が発表された場合や公共交通機関が運行停止等になり登校できない場合は、欠席による不利益がないよう配慮しますので、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、以下の事例以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

特別警報又は暴風警報発表の場合

特別警報又は暴風警報が以下のいずれかの地域に発表された場合は次のとおり休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は終日休講とします。また、特別警報又は暴風警報が授業時間中に発表された場合は、授業を中止して休講とします。

1. 警報発表対象地域

大阪府：大阪市、北大阪（豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町）、東部大阪（東大阪市・守口市・枚方市・八尾市・寝屋川市・大東市・柏原市・門真市・四條畷市・交野市）、南河内（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村）、泉州（堺市・岸和田市・泉大津市・貝塚市・泉佐野市・和泉市・高石市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町）

兵庫県：阪神（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）

奈良県：北西部（奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町）、五條・北部吉野（五條市北部・吉野町・大淀町・下市町）

京都府：京都・亀岡（京都市・亀岡市・向日市・長岡京市・大山崎町）、山城中部（宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町・井出町・宇治田原町）、山城南部（木津川市・笠置町・和束町・精華町・南山城村）

2. 暴風警報解除時刻と授業開始時限

解除時刻	授業開始時限
6時00分時点で解除	1時限目から実施
10時00分時点で解除	3時限目から実施
13時00分時点で解除	6時限目から実施
13時00分時点で警報発表中	全時限休講

※ 6時00分時点で特別警報が発表されている場合は解除時刻にかかわらず終日休講

特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、特別警報の種類は問わず、自身の判断により命を守るために最善と思われる行動をとってください。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。

交通機関の運行停止の場合

台風・地震等により以下に該当するいずれかの交通機関が全面的に運行停止となった場合、運行が再開された時刻により次のとおり休講とします。ただし、当該交通機関での事故等による一時的な運行停止は対象とならないので注意してください。

1. 対象交通機関

[台風・地震等の災害による運行停止]

- ① 近鉄「大阪線」「奈良線」が同時に運行停止になった場合
- ② JR西日本（※参照）、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

※ JR西日本は大阪環状線、京都線（京都～大阪）、神戸線（大阪～姫路）、学研都市線（京橋～木津）、東西線（京橋～尼崎）、宝塚線（大阪～新三田）、ゆめ咲線（西九条～桜島）、大和路線（加茂～JR難波）、阪和線（天王寺～和歌山）、おおさか東線（新大阪～久宝寺）を対象とします。
なお、JR西日本のみで2以上の路線が運行停止となった場合は休講の対象となりません。

[ストライキによる運行停止]

- ① 近鉄が運行停止になった場合
- ② JR西日本、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

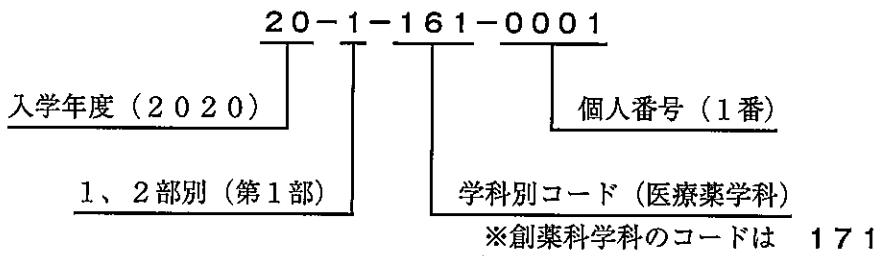
2. 運転再開時刻と授業開始時限

運転再開時刻	授業開始時限
6時00分時点で再開	1時限目から実施
10時00分時点で再開	3時限目から実施
13時00分時点で再開	6時限目から実施
13時00分時点で運行停止中	全時限休講

III 学籍関係の概略

1 学籍番号

入学手続が完了すると学籍番号（学生証に記載される番号）が付与されます。この番号（10桁）は本学薬学部学生として登録されたことを表し、受験または各種証明書発行願等にも、部別・学部・学科・学年・氏名とともに記入しなければなりません。



2 身上異動届

身上に変更事項があった場合は、直ちに届け出る必要があります。現住所の変更は速やかにしなければ、緊急連絡が必要な場合、思わぬ不利を招くことになりますから注意してください。詳細は学生課に照会してください。

(注) 学生規程第10条

3 退学・再入学

(1) 病気その他、やむを得ない事由で退学する場合には、その理由を記し、研究室指導教員またはアドバイザー教員の面談後、保証人連署のうえ学生証を添付して薬学部事務部に届け出なければなりません。詳細は薬学部事務部に照会してください。

(注) 学則第32条、学生規程第20条

(2) 退学した者が再入学を希望する場合は、退学となった学年度、翌学年度及び翌々学年度の所定の期間に出願すれば教授会で審議のうえ、許可される場合があります。

(注) 学則第33条、学生規程第24条

4 休学・復学

(1) 病気その他、やむを得ない事由で休学する場合には、その理由を記し、研究室指導教員またはアドバイザー教員の面談後、保証人連署のうえ薬学部事務部に届け出なければなりません。詳細は薬学部事務部に照会してください。

(注) 学則第30条、学生規程第18条

(2) 休学者が復学を希望する場合は、所定の期間内に、保証人連署で願い出れば教授会で審議のうえ、復学が許可される場合があります。詳細は薬学部事務部に照会してください。

(注) 学則第31条、学生規程第23条

5 除籍・復籍

(1) 学費を納入期限までに納入しない場合は、除籍され学生の身分を失うことになります。

(注) 学則第38条第3項、学生規程第21条

(2) 除籍された者が復籍（学籍の復帰）を希望するときは、所定の期間内に手続きをした場合、教授会で審議のうえ、復籍が許可される場合があります。詳細は薬学部事務部に照会してください。

(注) 学則第31条第2項、学生規程第22条

IV 中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館（入口：旧大学本館3階）を大いに活用してください。中央図書館を利用する際に、是非とも知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

1 開館時間（中央図書館3～5階）

開講期： 8：45～22：00 閉講期： 9：00～18：00

試験期： 8：30～22：00 日曜・休日開館日： 10：00～18：00

※館内へは学生証を使って入館してください。

2 貸出冊数・期間

学生は1人につき10冊まで、1冊につき15日以内で借りることができます。

院生は1人につき20冊まで、1冊につき1ヶ月以内で借りることができます。

※貸出の際には学生証が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

3 指定図書について（中央図書館）

「授業計画（Syllabus）」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や定期試験等に活用してください。

4 各種講習会について（オンデマンドによる随時開催など）

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えします。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館館内掲示板、または中央図書館ホームページなどでお知らせします。

中央図書館 URL

中央図書館 HP <https://www.clib.kindai.ac.jp>

蔵書検索システム（OPAC） <https://opac.clib.kindai.ac.jp>

中央図書館公式 Twitter 近畿大学中央図書館 @Kindai_Clib



中央図書館 HP

医療薬学科

医療薬学科の学習について	17
進級基準・卒業資格の要件	18
共通教養科目・外国語科目表	20
専門科目表	22
令和2年度科目担当教員一覧	25
その他	39

医療薬学科の学習について

医療薬学科長

川崎直人

① 医療薬学科カリキュラムの目的

医学の進歩に伴い、医薬品使用の適正化のみならずレギュラトリーサイエンスを基盤とした医薬品の探索や臨床研究も含めて、薬学の社会的機能が高度化しています。これらに呼応し、将来、実践でできるようにするため、関連科目を年次進行に合わせスパイラルに配置したカリキュラムを設定するとともに、単なる知識の習得では無く、SGD (Small Group Discussion)、PBL (Problem-Based Learning)を取り入れ、医療を実践するために必要な技能、態度の学習を重視し、考える力を養う事に重きを置いています。

② カリキュラムの内容

まず1、2年次には、薬剤師に求められる基本的な資質、すなわち豊かな人間性と医療人としての責任感、倫理観を学ぶため、教養科目、早期体験学習、基礎ゼミ、そして専門教育への導入科目である専門基礎科目を設けています。1年次での早期体験学習は、病院薬剤部見学、人体臓器観察、地域薬局見学等はもちろんのこと、近畿大学薬学部ならではの医薬連携プログラムとして、近畿大学病院での患者サポートを行う病棟体験学習も行われます。基礎ゼミではSGDを取り入れ、薬剤師として必要な資質であるコミュニケーション能力、問題解決能力を養成しますので、積極的に参加してください。新薬の奏功率、副作用情報の収集、治験等において、薬剤師の職能に英語の必要性が増加していますので、ネイティブによる英語科目も配置しています。

また、4年次に「医薬連携学習」として医学部学生とのPBL等が実施され、チーム医療の根幹を勉強します。3～4年次では特に医療薬学に重点を置いた専門教育を行い、将来薬剤師として必要とされる実践的な科目を学習します。さらに、3年次後期から、全学生が研究室・部門に所属して卒業研究を行い、将来の医療の発展に貢献できるリサーチマインド、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を身につけます。近畿大学は総合大学ですので、研究能力を飛躍的に向上させる環境も整っています。そして4年次後半に、臨床薬学実務実習を行うための基本の薬学知識を問われるCBT (Computer-Based Testing) 及び臨床の態度や技能について評価されるOSCE (Objective Structured Clinical Examination) といった共用試験に合格する必要があります。これらに合格すると、4年次後期から、臨床薬学実務実習が22週間実施され、実務経験を積むことになります。さらに、6年次には多職種連携を身に付けるための「がん治療学医薬看連携講義」を、特徴ある科目として開講しています。

③ 学生諸君に気を付けてほしい事

1、2年次を中心に実施される薬学基礎科目（物理・化学・生物系科目）は、医療系科目の土台となるばかりか、薬剤師国家試験にも幅広く出題されますので、試験には、余裕のあるスケジュールを立てて学習するよう心がけてください。大学での勉強は、高校時代の勉強方法とは異なります。特に1年生の諸君は、アドバイザーとよく相談し、予復習する習慣を身につけるようにしてください。また、2年次以降の専門科目のほとんどが、薬剤師に必須の知識となりますので、単なる記憶に頼るのではなく、理解することが重要です。

特に、入学年度で進級基準、履修科目が異なりますので、内容を良く理解しておいてください。疑問点があれば必ずアドバイザーや事務職員に相談してください。

最後に、薬のスペシャリストとして、人の命と健康を守る事を通じて社会に貢献する薬剤師になるため医療薬学科に入学した事を、その薬剤師になるための知識・技能・態度を学習している事を忘れないで、充実した大学生活を送って頂ければと思います。

進級基準・卒業資格の要件及び授業科目【医療薬学科】

【平成30年度以降入学生適用カリキュラム】

進級基準

薬学部医療薬学科では各年次ごとに進級のための基準が設けられています。この基準どおりの単位を修得できなければ留年となります。

各年次への進級基準（必要単位数）は次のとおりです。

- (1) 第1年次から第2年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。
- | | |
|----------------------------|---------|
| ア 共通教養科目（基礎ゼミ・専門基礎科目を除く）から | 10 単位 |
| イ 共通教養科目（基礎ゼミ） | 2 単位 |
| ウ 共通教養科目（専門基礎科目）から | 6 単位 |
| エ 英語から | 4 単位 |
| オ 外国語科目（英語及び初修外国語）から | 1 単位 |
| カ 専門講義科目から | 10.5 単位 |
| キ 専門実習科目から | 6 単位 |
- (2) 第2年次から第3年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。
- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| ア 共通教養科目（基礎ゼミ・専門基礎科目を除く）から | 12 単位 |
| イ 共通教養科目（基礎ゼミ） | 2 単位 |
| ウ 共通教養科目（専門基礎科目）から | 6 単位 |
| エ 英語から | 8 単位 |
| オ 外国語科目（英語及び初修外国語）から | 4 単位 |
| カ 2年次開講専門講義科目から | 26 単位
(必修科目 4.5 単位以上を含む) |
| キ 専門英語科目から | 3 単位 |
| ク 専門実習科目から | 12 単位 |
| ケ 1年次開講専門講義必修科目から | 1.5 単位 |
- (3) 第3年次から第4年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。
- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| ア 英語から（必修 6 単位を含む） | 8 単位 |
| イ 外国語科目（英語及び初修外国語）から | 4 単位 |
| ウ 3年次開講専門講義科目から | 25.5 单位
(必修科目 4.5 単位以上を含む) |
| エ 専門実習・演習科目から | 18 単位 |
| オ 2年次開講専門講義必修科目から | 6 単位 |
- (4) 第4年次から第5年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。
- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| ア 4年次開講専門講義科目から | 11.5 単位
(必修科目 7 単位以上を含む) |
| イ 専門英語科目から | 4.5 単位 |
| ウ 専門実習・演習科目から | 32 単位 |
| エ 3年次開講専門講義必修科目から | 6 単位 |
- (5) 第5年次から第6年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していなければならない。
- | | |
|-----------------|--|
| ア 5年次開講専門講義科目から | 1.5 単位 |
| イ 専門実習・演習科目から | 32 単位
(ただし、臨床薬学実務実習、総合薬学研究3（24 単位）を単位取得見込みであること。) |

【平成 30 年度以降入学生適用カリキュラム】

卒業資格の要件

卒業できる資格は、6年間以上在学し、次の単位を修得することにより得られます。

科 目	卒 業 要 件	卒業必要単位数
共通教養科目	基礎ゼミ・専門基礎科目を除く共通教養科目から (ただし、人間性・社会性科目群より 2 単位以上、 課題設定・問題解決科目群より 2 単位以上、地域 性・国際性科目群およびスポーツ表現活動科目群よ り 2 単位以上) 基礎ゼミ(必修) 専門基礎科目から	12 単位 20 単位 2 単位 6 单位
外 国 語 科 目	英語の中から ただし、必修科目（6 単位）を含む さらに 英語及び初修外国語の中から	8 単位 12 単位 4 单位
専 門 科 目	必修科目 I 群選択必修科目（44.5 単位）の中から ただし、化学系 19 単位 生物系 18 単位 II 群選択必修科目（23.5 単位）の中から ただし、6 年次開講選択必修科目（3 単位）を含む 専門英語の中から 実習・演習（必修）	28 単位 37 単位 156 単位 20.5 单位 4.5 单位 66 单位
合 計		188 単位

共通教養科目（専門基礎科目含む）・外国語科目表（1）

【平成30年度以降入学生適用カリキュラム】

医療薬学科

科 目 一 覧			単位数	開 講 年 次		備 考
				1年次	2年次	
		前期	後期	前期	後期	
共 通 教 養 科 目	人間性・社会性科目群	人 権 と 社 会 1	2	○		
		人 権 と 社 会 2	2		○	
		暮 ら し の な か の 憲 法	2		○	
		現 代 社 会 と 倫 理	2	○		
		心 理 と 行 動	2		○	
		現 代 経 済 の 課 題	2	○		
		自 校 学 習	2	○		
		住 み よ い 社 会 と 福 祉	2			○
		教 養 特 殊 講 義 A	2	○		
教 養 科 目	地域性・科性目・群国	生 活 環 境 科 学	2		○	
		国 際 化 と 異 文 化 理 解	2		○	
		教 養 特 殊 講 義 B	2	○		
	題課題解説設定科目・群問	基 础 ゼ ミ	2	○		
		基 础 数 学	2	○		
		情 報 科 学 入 門	2	○		
		物 理 学 概 論	2	○		
		日 本 語 の 技 法	2			○
		教 養 特 殊 講 義 C	2	○		
専 門 基 礎 科 目	ス ポ ル ト 科 目 群 表	生 涯 ス ポ ー ツ 1	1	○		
		生 涯 ス ポ ー ツ 2	1		○	
	専門基礎科目	化 学 入 門	2	○		
		生 物 学 入 門	2	○		
		基 础 化 学	2	○		
		基 础 生 物 学	2	○		
外 國 語 科 目	英 語	英 語 演 習 1	2	○		
		英 語 演 習 2	2		○	
		英 語 演 習 3	1			○
		英 語 演 習 4	1			○
		オーラルイングリッシュ1	1	○		
		オーラルイングリッシュ2	1		○	
		オーラルイングリッシュ3	1			○
		オーラルイングリッシュ4	1			○
		T O E I C A	1			○
		T O E I C B	1			○
		T O E F L A	1			○
		T O E F L B	1			○

(注) ○印は必修、○印は選択を表す。

共通教養科目（専門基礎科目含む）・外国語科目表（2）

医療薬学科

科 目 一 覧		単位数	開講年次				備 考	
			1年次		2年次			
			前期	後期	前期	後期		
外 國 語 科 目	初 修 外 國 語	ドイツ語総合1	1	○				
		ドイツ語総合2	1		○			
		ドイツ語総合3	1			○		
		ドイツ語総合4	1			○		
		ドイツ語コミュニケーション1	1			○		
		ドイツ語コミュニケーション2	1			○		
		ドイツ語コミュニケーション3	1					
		ドイツ語コミュニケーション4	1				3~4年次配当	
	外 國 語	フランス語総合1	1	○				
		フランス語総合2	1		○			
		フランス語総合3	1			○		
		フランス語総合4	1			○		
		フランス語コミュニケーション1	1			○		
		フランス語コミュニケーション2	1			○		
		フランス語コミュニケーション3	1					
		フランス語コミュニケーション4	1				3~4年次配当	
	中 國 語	中国語総合1	1	○				
		中国語総合2	1		○			
		中国語総合3	1			○		
		中国語総合4	1			○		
		中国語コミュニケーション1	1			○		
		中国語コミュニケーション2	1			○		
		中国語コミュニケーション3	1					
		中国語コミュニケーション4	1				3~4年次配当	

(注) ○印は選択を表す。

専門科目表(1)
【平成27年度以降入学生適用カリキュラム】

医療薬学科

学群	選択科目	単位数	開講年次												備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
I群	選択必修科目・化学系	基礎有機化学	1.5	○												
		有機化学1	1.5		○											
		基礎分析化学	1.5		○											
		薬用資源学	1.5		○											
		基礎物理化学	1.5		○											
		物理化学	1.5			○										
		有機化学2	1.5			○										
		機器分析学	1.5			○										
		天然物薬化学	1.5			○										
		生物有機化学	1.5				○									
		物理薬剤学	1				○									
		構造分析化学	1.5				○									
		製剤学	1.5					○								
		食品衛生学	1.5					○								
		医薬品化学	1.5					○								
		合成化学	1.5					○								
II群	選択必修科目・生物系	解剖組織学	1.5		○											
		基礎生化学	1.5		○											
		人体生理学1	1.5		○											
		分子薬理学	1.5			○										
		人体生理学2	1.5			○										
		生化学	1.5			○										
		細胞生物学	1.5			○										
		微生物学	1.5			○										
		衛生化学	1.5				○									
		免疫学	1.5				○									
		分子ゲノム薬科学	1.5				○									
		先端ゲノム医療	1.5					○								
		環境衛生学	1.5						○							
		保健衛生学	1.5							○						

(注) ○印は必修科目、○は選択必修科目

(注) 1単位科目は10回で終了

専門科目表 (2)

医療薬学科

学群	選択科目	単位数	開講年次						備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修科目	薬学概論	1.5	◎								
	生命倫理	1.5		◎							
	薬理学1	1.5			◎						
	病理解剖	1.5			◎						
	病態生理学1	1.5			◎						
	疾患と薬物治療法1	1.5				◎					
	基礎医療薬学	1.5				◎					
	医薬品情報学	1.5				◎					
	薬物動態学1	1.5				◎					
	医薬連携学習	1					◎				
	調剤学	1.5					◎				
	ファーマシューイカルケア	1.5					◎				
	医療・薬事関係法規1	1.5					◎				
	臨床医学概論	1.5						◎			
	医療薬学総論	1.5						◎			
II群	実践病態と治療	1.5							◎		
	臨床薬物動態学	1.5								◎	
	地域医療	1.5								◎	
	薬効薬理処方解析	1.5								◎	
	放射化学	1			◎						
選択必修科目	薬理学2	1.5				◎					
	薬学統計学	1.5				◎					
	病態生理学2	1.5				◎					
	漢方薬学	1.5					◎				
	日本薬局方	1.5					◎				
	化学療法学	1.5					◎				
	病態検査学	1.5					◎				
	薬物速度論	1.5					◎				
	薬物動態学2	1.5					◎				
	疾患と薬物治療法2	1.5					◎				
	疾患と薬物治療法3	1.5						◎			
	薬と経済	1.5						◎			
	治験	1.5							◎		
	医療・薬事関係法規2	1.5							◎		
	がん治療学医薬看連携講義	1.5							◎		

(注) ◎印は必修、○印は選択必修を表す。

(注) 1単位科目は10回で終了

専門科目表 (3)

医療薬学科

学群	選択科目	単位数	開講年次												備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門英語	基礎生物学英語	1.5		○												
	基礎化学英語	1.5			○											
	生物学英語	1.5				○										
	臨床薬学英語	1.5							○							
自由選択	応用物理学	1.5			○											
	物理学実習	1.5					○									
	香粧品学	1.5						○								
実習・演習	情報科学実習 1	1	○													
	情報科学実習 2	1		○												
	基礎薬科学実習	2	○													
	早期体験学習	2	○													
	医薬品物性・製剤学実習	2			○											
	免疫・分子生物学実習	2				○										
	有機化学・生薬学実習	2				○										
	衛生化学・放射化学実習	2					○									
	薬効薬物動態解析実習	2					○									
	総合薬学研究 1	2						○								
	総合薬学研究 2	2							○							
	フィジカルアセメント	1							○							
	実務実習事前学習	7								○						
	総合演習 1	4								○						
	臨床薬学実務実習	20									○					
	総合薬学研究 3	4									○					
	総合薬学演習	4										○				
	総合演習 2	6											○			

(注) ○印は必修、○印は選択を表す。

自由選択科目は、卒業・進級所要単位数に加算されない。

令和2年度 共通教養科目（専門基礎科目含む）担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
人 権 と 社 会 1・2	人 権 問 題 研 究 所	西 村 秀 樹
人 権 と 社 会 1	全 学 共 通 教 育 機 構	藤 本 伸 樹
暮 ら し の な か の 憲 法	全 学 共 通 教 育 機 構	廖 修 雅
現 代 社 会 と 倫 理	全 学 共 通 教 育 機 構	森 本 聰
心 理 と 行 動	全 学 共 通 教 育 機 構	中 道 希 容
現 代 経 済 の 課 題	全 学 共 通 教 育 機 構	中 仲 井 翔
自 校 学 習	薬 学 部	中 村 武 夫
	薬 学 部	松 野 純 男
	薬 学 部	大 内 秀 一
	薬 学 部	多 賀 淳 幸
	薬 学 部	和 田 哲 幸
	全 学 共 通 教 育 機 構	久 保 己 宏
教 养 特 殊 講 義 A	法 学 部	神 田 宏 薫
	薬 学 部	真 砂 晃
	薬 学 部	田 中 博 夫
	薬 学 部	中 村 武 夫
	薬 学 部	真 砂 薫
	全 学 共 通 教 育 機 構	フィゴーニ ウィリアム
生 活 環 境 科 学	薬 学 部	田 中 博 晃
	薬 学 部	專 任 教 員
	理 工 学 部	高 崎 久 弘
	薬 学 部	木 下 充 弘
	薬 学 部	八 軒 浩 子
	原 子 力 研 究 所	堀 口 哲 男
国 際 化 と 異 文 化 理 解	全 学 共 通 教 育 機 構	都 築 美
	經 営 学 部	田 邊 智
	經 営 学 部	熊 本 和 正
	經 営 学 部	楠 本 秀 忠
	經 営 学 部	橘 田 恵 正
	經 営 学 部	村 上 駿 俊
基 础 ゼ ミ	經 営 学 部	山 内 章 裕
	經 営 学 部	田 中 幸 ふ
	經 営 学 部	橋 本 剛 幸
	經 営 学 部	田 中 ひ か る
	經 営 学 部	西 田 一 順
	經 営 学 部	中 井 純 史
基 础 数 学	經 営 学 部	池 川 哲 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
情 報 科 学 入 門	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
物 理 学 概 論	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
日 本 語 の 技 法	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
生 涯 ス ポ ーツ 1・2	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓
	經 営 学 部	大 前 拓

令和2年度 共通教養科目（専門基礎科目含む）担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
生涯スポーツ1・2	経営学部	鳥 和成
	経営学部	辻 田 佳保里
	経営学部	寺 田 進志
	経営学部	佐 川 和則
	経営学部	光 山 行秀
	経営学部	時 本 昌樹
生涯スポーツ1	経営学部	小 林 未季代
	経営学部	谷 所 慶
	経営学部	川 野 裕姫子
	経営学部	三 村 覚
	薬学部	大 内 秀一
	薬学部	多 賀 淳
生涯スポーツ2	薬学部	和 田 哲幸
	薬学部	川 瀬 篤史
	薬学部	船 上 仁範
	薬学部	深 尾 亜喜良
	薬学部	大 内 秀一
	薬学部	多 賀 淳
基礎化学	薬学部	和 田 哲幸
	薬学部	川 瀬 篤史
	薬学部	船 上 仁範
	薬学部	深 尾 亜喜良
	薬学部	大 内 秀一
	薬学部	多 賀 淳
基礎生物学	薬学部	和 田 哲幸
	薬学部	川 瀬 篤史
	薬学部	船 上 仁範
	薬学部	深 尾 亜喜良
	薬学部	大 内 秀一
	薬学部	多 賀 淳
化学入門	薬学部	和 田 哲幸
	薬学部	川 瀬 篤史
	薬学部	船 上 仁範
	薬学部	深 尾 亜喜良
	薬学部	大 内 秀一
	薬学部	多 賀 淳
生物学入門	薬学部	和 田 哲幸
	薬学部	川 瀬 篤史
	薬学部	船 上 仁範
	薬学部	深 尾 亜喜良
	薬学部	大 内 秀一
	薬学部	多 賀 淳

令和2年度 外国語科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員		
	所 属	氏 名	
英 語 演 習 1 · 2	薬 学 部	眞 砂 薫	
	薬 学 部	廣 重 尚 実	
	薬 学 部	小 板 裕 美	
	薬 学 部	清 水 綾 香	
	薬 学 部	吉 見 明 子	
	薬 学 部	戸 部 史 子	
	薬 学 部	田 中 博 晃	
	薬 学 部	小 板 裕 美	
	薬 学 部	廣 重 尚 実	
	薬 学 部	清 水 綾 香	
英 語 演 習 3 · 4	薬 学 部	戸 部 史 子	
	薬 学 部	フィゴーニ ウィリアム	
	理 工 学 部	ショーン ホワイト	
	薬 学 部	シェーン リーチ	
	薬 学 部	カールソン クリストン	
	経 営 学 部	ルドルフ ジュリアーン	
	薬 学 部	フィゴーニ ウィリアム	
	薬 学 部	シェーン リーチ	
	薬 学 部	カールソン クリストン	
	経 営 学 部	ルドルフ ジュリアーン	
T O E I C A · B	建 築 学 部	木 南 法 子	
T O E F L A · B	薬 学 部	清 水 綾 香	
ライティング A · B	薬 学 部	小 板 裕 美	

令和2年度 外国語科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
ドイツ語総合 1・2	薬 学 部	吉 田 由 美 子
	法 学 部	三 宅 博 子
	薬 学 部	橋 本 紘 樹
	総 合 社 会 学 部	紀 之 定 真 理 恵
	法 学 部	山 口 知 廣
	理 工 学 部	近 藤 悟
	薬 学 部	酒 井 友 里
ドイツ語総合 3・4	経 営 学 部	トーマス シュピングル
	法 学 部	黒 沢 宏 和
	経 営 学 部	小 田 直 史
	理 工 学 部	河 野 英 二
フランス語コミュニケーション 1	理 工 学 部	北 野 文 英
	経 济 学 部	中 所 聖 一
	文 芸 学 部	松 村 博 史
フランス語コミュニケーション 2	法 学 部	阿 部 慎 太 郎
	経 営 学 部	陳 学 雄
	経 営 学 部	飯 塚 君 穂
中国語総合 1・2	理 工 学 部	小 出 敦
中国語総合 3	理 工 学 部	村 田 浩
中国語総合 4	法 学 部	畠 忍
中国語コミュニケーション 1・2		

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員		
	所 属	氏 名	
基礎有機化学	薬学部	大内秀一	
有機化学1	薬学部	大田邊三元	
基礎分析化学	薬学部	鈴木茂生	
薬用資源学	薬学部	遠藤雄一	
基礎物理化学	薬学部	中村真也	
物理化学	薬学部	仲西功	
有機化学2	薬学部	田邊元三	
有機器分析学	薬学部	木下充弘	
天然物薬化学生	薬学部	村田和也	
天生物有機化学生	薬学部	田邊元三	
物理薬剤学	薬学部	西井功	
構造分析化学	薬学総合研究所	川紀章	
製剤学	薬学部	森敏生	
食品衛生学	薬学部	井川紀人	
医薬品化学生	薬学部	前川直章	
合成化学生	薬学部	中川智弘	
解剖組織学	薬学部	中山光志	
基礎生化学	薬学部	本原伸哲	
人体生理学1	薬学部	原俊仁	
分子薬理学	薬学部	上篠史	
人体生理学2	薬学部	畠中哲	
人生化学生	薬学部	田原俊	
細胞生物学	薬学総合研究所	谷原伸	
微生物学	薬学部	山崎隆司	
衛生化学	薬学部	川嶋直彦	
免疫学	薬学部	方文彦	
分子ゲノム薬科学	薬学部	中山志子	
先端ゲノム医療	薬学部	杉浦恵子	
環境衛生学	薬学部	高麗子	
保健衛生学	薬学部	佐藤亮介	
薬学概論	薬学部	川崎直人	
	薬学部	川崎直人	
	薬学部	岩城宏	
	薬学部	西田正三	
	薬学部	川畠史	

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員		
	所 属	氏 名	
薬 学 概 論	薬 学 部	高 田 充 隆	
	薬 学 部	小 竹 武	
	薬 学 部	中 山 隆 志	
	薬 学 部	藤 原 伸 伸	
	薬 学 部	田 邦 三	淳
	薬 学 部	多 賀 一	徹
	薬 学 部	細 見 光	
	薬 学 部	大 鳥 徹	
	薬 学 部	長 井 章	
	薬 学 部	船 上 範	
生 命 倫 理	薬 学 部	北 小 路 学	
	薬 学 部	細 見 光	
	薬 学 部	大 鳥 徹	
	薬 学 部	石 渡 二	美
	薬 学 部	井 上 知	聰
	薬 学 部	横 山 一	徹
	薬 学 部	関 口 富	美 子
	薬 学 部	西 田 正	寛
	薬 学 部	椿 川 史	篤
	薬 学 部	川 烟 三	升
薬 理 学 1	薬 学 部	横 山 聰	
	薬 学 部	高 田 隆	
	薬 学 部	岩 城 宏	
	薬 学 部	小 竹 武	
病 理 学	薬 学 部	細 見 一	美 学
	薬 学 部	井 上 知	
	薬 学 部	北 小 路 光	
	薬 学 部	細 見 光	
病 態 生 理 学 1	薬 学 部	細 見 正	学
	薬 学 部	井 上 知	
	薬 学 部	北 小 路 光	
	薬 学 部	細 見 正	学
疾 患 と 薬 物 治 療 法 1	薬 学 部	西 田 卓	司
	薬 学 部	山 本 典	介
	薬 学 部	竹 井 太	美
	薬 学 部	馬 松 長	
基 礎 医 療 薬 学	薬 学 部	竹 井 良	
	薬 学 部	山 木 長	
	薬 学 部	馬 松 美	
	薬 学 部	田 井 勝	
医 薬 品 情 報 学	薬 学 部	城 井 卓	司
	薬 学 部	高 田 充	介
	薬 学 部	岩 井 長	美
	薬 学 部	小 竹 伸	
医 物 動 態 学 1	薬 学 部	井 上 美	
	薬 学 部	城 井 長	
	薬 学 部	高 田 充	
	薬 学 部	岩 井 長	
医 薬 連 携 学 習	薬 学 部	小 竹 伸	
	薬 学 部	井 上 美	
	薬 学 部	城 井 長	
	薬 学 部	高 田 充	
調 制 剂 学	薬 学 部	井 上 美	
	薬 学 部	城 井 長	
	薬 学 部	高 田 充	
	薬 学 部	井 上 美	
ファーマシューティカルケア	薬 学 部	井 上 美	
	薬 学 部	城 井 長	
	薬 学 部	高 田 充	
	薬 学 部	井 上 美	
医 療 ・ 薬 事 関 係 法 規 1	薬 学 部	井 上 美	
	薬 学 部	城 井 長	
	薬 学 部	高 田 充	
	薬 学 部	井 上 美	
臨 床 医 学 概 論	医 学 部	井 上 美	
	医 学 部	城 井 長	
	医 学 部	高 田 充	
	医 学 部	井 上 美	
	医 学 部	城 井 長	
	医 学 部	高 田 充	
	医 学 部	井 上 美	
	医 学 部	城 井 長	
	医 学 部	高 田 充	
	医 学 部	井 上 美	

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
臨 床 医 学 概 論	医 学 部	松 村 謙 臣
	医 学 部	西 田 直 生 志
	医 学 部	中 泽 學
	医 学 部	重 岡 宏 典
	原 子 力 研 究 所	松 田 外 志 朗
	藥 学 部	井 上 知 美
	近 畿 大 学 病 院	竹 上 行 美 学
	近 畿 大 学 病 院	月 岡 康 行
	近 畿 大 学 病 院	古 川 諭
	近 畿 大 学 病 院	吉 年 宏 行
医 療 藥 学 総 論	近 畿 大 学 奈 良 病 院	岡 本 広 世
	近 畿 大 学 病 院	吉 田 宏 二
	近 畿 大 学 病 院	久 斗 広 章
	近 畿 大 学 病 院	柳 江 正 嗣
	藥 学 部	松 野 純 男
	藥 学 部	川 畑 史 帆
	藥 学 部	坪 田 帆 真
	藥 学 部	松 野 純 男
	藥 学 部	関 口 富 美 子
	藥 学 部	遠 藤 一 雄
放 射 化 学	藥 学 部	多 賀 雄 一
	藥 学 部	中 山 隆 志
	藥 学 部	三 田 邦 子
	藥 学 部	川 瀬 史 宏
	藥 学 部	岩 城 正 宏
	藥 学 部	西 田 三 三
	藥 学 部	西 田 寛 正
	藥 学 部	椿 大 徹
	藥 学 部	大 安 二
	藥 学 部	内 秀 一
薬 理 学 2	藥 学 部	高 田 隆 功
	藥 学 部	仲 西 直 人
	藥 学 部	川 崎 男
	藥 学 部	松 野 純 武
	藥 学 部	小 竹 淳
	藥 学 部	多 賀 弘
	藥 学 部	前 川 智 弘
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
薬 学 統 計 学	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
病 態 生 理 学 2	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
漢 方 藥 学	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
日 本 藥 局 方 学	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
化 学 檢 查 学	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
病 物 速 度 論	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
薬 物 動 態 学 2	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
	藥 学 部	
疾 患 と 薬 物 治 療 法 2	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
疾 患 と 薬 物 治 療 法 3	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
薬 と 経 済	薬 学 部	
	經 営 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
実 践 病 態 と 治 療	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	
	薬 学 部	

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
実 践 病 態 と 治 療	薬 学 部	和 田 哲 幸
	薬 学 部	北 小 路 光
	薬 学 部	細 見 一 徹
	薬 学 部	大 鳥 渡 俊
	薬 学 部	石 船 上 仁
	薬 学 部	井 上 知
	薬 学 部	横 山 美 聰
	薬 学 部	小 竹 武 徹
	薬 学 部	大 鳥 路 学
	薬 学 部	北 小 路 至 之
臨 床 薬 物 動 態 学	薬 学 部	狭 間 研
	薬 学 部	市 川 隆
	薬 学 部	藤 田 史
	薬 学 部	永 田 史
	薬 学 部	小 竹 武
	薬 学 部	中 村 夫
	薬 学 部	仲 西 功
	薬 学 部	松 野 男
	薬 学 部	西 田 升
	薬 学 部	椿 正 宽
地 域 医 療	医 学 部	中 川 彦
	医 学 部	安 田 司
	医 学 部	西 村 昌
	医 学 部	岩 朝 勤
	医 学 部	武 田 真
	医 学 部	川 上 尚
	医 学 部	市 村 子
	近畿大学奈良病院	古 川 諭
	近畿大学病院	藤 原 季
	近畿大学病院	木 寺 美
薬効薬理処方解析 医療・薬事関係法規2	近畿大学病院	川 口 裕
	近畿大学病院	浅 野 輩
	近畿大学病院	藤 本 伸
	薬学総合研究所	谷 晃 一郎
	薬 学 部	島 田 紘 明
	薬 学 部	遠 藤 雄 一
	薬 学 部	山 本 佐 知 雄
	がん治療学医薬看連携講義	
基 础 生 物 学 英 語		
基 础 化 学 英 語		

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
生物 学 英 語	薬 学 部	深 尾 亜喜良
	薬 学 部	武 田 朋也
臨 床 薬 学 英 語	薬 学 部	石 渡 俊二
応 用 物 理 学	原 子 力 研 究 所	芳 原 新也
物 理 学 実 習	薬 学 部	仲 西 功
	薬 学 部	吉 井 隆
香 粧 品 学	薬 学 部	吉 岡 隆嗣
	薬 学 部	仲 西 功
	薬 学 部	和 田 哲幸
情 報 科 学 実 習 1	薬 学 部	木 下 充弘
	薬 学 部	八 軒 浩子
	薬 学 部	仲 西 功
	薬 学 部	木 下 充弘
情 報 科 学 実 習 2	薬 学 部	西 脇 敬二
	薬 学 部	中 村 真也
	薬 学 部	松 野 純男
	薬 学 部	中 山 隆志
	薬 学 総 合 研 究 所	森 川 敏生
	薬 学 部	藤 原 伸三
	薬 学 部	田 邊 元
	薬 学 部	多 賀 淳
	薬 学 部	前 川 弘
	薬 学 部	遠 藤 一子
基 礎 薬 科 学 実 習	薬 学 部	三 田 和也
	薬 学 部	村 田 文範
	薬 学 総 合 研 究 所	二 宮 清仁
	薬 学 部	船 上 文洋
	薬 学 部	石 川 志哲
	薬 学 部	山 本 光
	薬 学 部	中 村 亜喜良
	薬 学 部	原 尾 大
	薬 学 部	高 島 克輝
	薬 学 部	島 倉 知里
	薬 学 部	中 田 隆夫
	薬 学 部	高 松 充純
早 期 体 験 学 習	薬 学 部	野 竹 男武

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員			
	所 属	氏 名		
早期体験学習	薬学部	大内秀一	内田哲幸	内田哲幸
	薬学部	和田小路	和田小路	和田小路
	薬学部	北見光一	北見光一	北見光一
	薬学部	細鳥徹一	細鳥徹一	細鳥徹一
	薬学部	大鳥渡二	大鳥渡二	大鳥渡二
	薬学部	石渡俊寬	石渡俊寬	石渡俊寬
	薬学部	椿正範	椿正範	椿正範
	薬学部	船上仁美	船上仁美	船上仁美
	薬学部	井上知子	井上知子	井上知子
	薬学総合研究所	中村恭子	中村恭子	中村恭子
	薬学生部	横山聰子	横山聰子	横山聰子
	薬学生部	八軒浩子	八軒浩子	八軒浩子
	薬学生部	武田朋也	武田朋也	武田朋也
	薬学生部	中村武浩	中村武浩	中村武浩
	薬学生部	鈴木茂生	鈴木茂生	鈴木茂生
	薬学生部	仲西功弘	仲西功弘	仲西功弘
	薬学生部	木下充章	木下充章	木下充章
	薬学生部	長瀬敬二	長瀬敬二	長瀬敬二
	薬学生部	西脇真也	西脇真也	西脇真也
	薬学生部	中山佐也	中山佐也	中山佐也
	薬学生部	大竹雄子	大竹雄子	大竹雄子
	薬学生部	杉浦子伸	杉浦子伸	杉浦子伸
	薬学生部	藤原範	藤原範	藤原範
	薬学生部	船仁恒	船仁恒	船仁恒
	薬学生部	高崎輝介	高崎輝介	高崎輝介
	薬学生部	佐藤亮介	佐藤亮介	佐藤亮介
	薬学生部	尾喜良介	尾喜良介	尾喜良介
	薬学生部	内豊一	内豊一	内豊一
	薬学総合研究所	森川一生	森川一生	森川一生
	薬学生部	田邊元三	田邊元三	田邊元三
	薬学生部	前川弘一	前川弘一	前川弘一
	薬学生部	遠藤智一	遠藤智一	遠藤智一
	薬学生部	村田和也	村田和也	村田和也
	薬学総合研究所	二宮清一	二宮清一	二宮清一
	薬学生部	石川洋文	石川洋文	石川洋文
	薬学生部	中原光洋	中原光洋	中原光洋
	薬学生部	高島克輝	高島克輝	高島克輝
医薬品物性・製剤学実習				
免疫・分子生物学実習				
有機化学・生薬学実習				

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
有機化学・生薬学実習	薬 学 部	島 倉 知 里
	共同利用センター	丸 本 真 輔
	薬 学 部	中 村 武 夫
	薬 学 部	川 崎 直 人
	薬 学 部	松 野 純 男
	薬 学 部	中 山 隆 志
	薬 学 部	原 中 雄 大
	薬 学 部	村 武 浩
衛生化学・放射化学実習	高度先端総合医療センター	細 野 真 里
	原 子 力 研 究 所	山 西 弘 城
	原 子 力 研 究 所	松 田 外 志 朗
	原 子 力 研 究 所	若 林 源 一 郎
	原 子 力 研 究 所	杉 山 亘
	原 子 力 研 究 所	芳 原 新 也
	原 子 力 研 究 所	山 田 崇 裕
	原 子 力 研 究 所	堀 口 哲 男
	薬 学 部	岩 城 正 宏
	薬 学 部	西 田 升 三
	薬 学 部	川 畑 篤 史
	薬 学 部	関 口 富 美 子
	薬 学 部	川 瀬 篤 史
	薬 学 部	椿 田 寛 帆
	薬 学 部	坪 田 真 帆
	薬 学 部	島 田 紗 明
	薬 学 部	武 田 朋 也
薬効薬物動態解析実習	薬学部・薬学総合研究所	専 任 教 員
	薬 学 部	小 竹 武
	薬 学 部	北 小 路 学
	薬 学 部	細 見 光 一
	薬 学 部	大 鳥 徹 二
	薬 学 部	石 渡 俊 美
	薬 学 部	井 上 知 聰
	薬 学 部	横 山 隆 武
	薬 学 部	高 田 充 隆
	薬 学 部	小 竹 武
	薬 学 部	北 小 路 学
	薬 学 部	細 見 光 一
総合薬学研究1・2・3	薬 学 部	大 鳥 徹 二
フィジカルアセスメント	薬 学 部	
実務実習事前学習	薬 学 部	

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員			
	所 属	氏 名		
実務実習事前学習	薬学部	石渡俊二	二美聰	俊二美聰
	薬学部	井上知子	裕宏	井上知子
	薬学部	横山浩子	裕子	横山浩子
	薬学部	八軒寺正讓	裕讓	八軒寺正讓
	近畿大学病院	木下年添	宏譲	木下年添
	近畿大学病院	吉山真美子	子雄	吉山真美子
	近畿大学病院	花木秀久	子雄	花木秀久
	薬学部	橋本久子	子雄	橋本久子
	薬学部	池田奈雄	司人一美	池田奈雄
	薬学部	大隅浩昭	人一美	大隅浩昭
	薬学部	河内昭祐	彦賀夫	河内昭祐
	薬学部	小泉尚美	彦賀夫	小泉尚美
	薬学部	近藤千紀	彦賀夫	近藤千紀
	薬学部	坂野達明	彦賀夫	坂野達明
	薬学部	坂本向彦	彦賀夫	坂本向彦
	薬学部	下城邦彦	彦賀夫	下城邦彦
	薬学部	高島敬彦	彦賀夫	高島敬彦
	薬学部	高城玲子	彦賀夫	高城玲子
	薬学部	高田博美	彦賀夫	高田博美
	薬学部	高中真一	彦賀夫	高中真一
	薬学部	中村かよ美	彦賀夫	中村かよ美
	薬学部	中橋久仁子	彦賀夫	中橋久仁子
	薬学部	長西琴弓	彦賀夫	長西琴弓
	薬学部	西田郁彦	彦賀夫	西田郁彦
	薬学部	平原勝彦	彦賀夫	平原勝彦
	薬学部	藤堀彦京	彦賀夫	藤堀彦京
	薬学部	三森奈央子	彦賀夫	三森奈央子
	薬学部	森吉章	彦賀夫	森吉章
	薬学部	吉岡中央	彦賀夫	吉岡中央
	薬学部	大里恭美	彦賀夫	大里恭美
	薬学部	小西順由	彦賀夫	小西順由
	薬学部	下口史子	彦賀夫	下口史子
	薬学部	森澤健子	彦賀夫	森澤健子
	薬学部	幸松市	彦賀夫	幸松市
	薬学部	西本市	彦賀夫	西本市

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
実務実習事前学習	薬 学 部	奥 野 桂 子
	薬 学 部	大 野 理 香
	薬 学 部	西 田 美 日
	薬 学 部	松 本 彰 布
	薬 学 部	高 野 聖 也
	薬 学 部	岡 本 優 子
	薬 学 部	森 本 健 幹
	薬 学 部	文 繁 龍 馬
	薬 学 部	堤 美 帆
	薬 学 部	森 住 誠
	薬 学 部	松 浦 正 佳
	薬 学 部	山 本 泰 希
	薬 学 部	福 由 紀 子
	薬 学 部	釣 茉 由 美
	薬 学 部	馬 清 賢 幸
	薬 学 部	山 口 大 伸
	薬 学 部	堤 信 也
	薬 学 部	林 昭 克
	薬 学 部	足 立 典 子
	薬 学 部	篠 谷 樹
	薬 学 部	松 尾 介 史
	薬 学 部	小 川 宽
	薬 学 部	浅 沼
	薬 学 部	木 下 克
	薬 学 部	切 佐 昌 子
	薬 学 部	近 裕 美
	薬 学 部	松 由 佳
	薬 学 部	岡 寛
	薬 学 部	新 怜
	薬 学 部	谷 懈
総 合 演 習 1	薬 学 部	専 任 教 員
	薬学部・薬学総合研究所	専 任 教 員
	薬 学 部	村 上 悅 子
	薬 学 部	市 田 成 志
	薬 学 部	三 木 康 義
	薬 学 部	伊 藤 吉 將
	薬 学 部	松 岡 寛
臨床薬学実務実習	近畿大学病院	竹 上 学
	近畿大学病院	月 岡 行
	近畿大学病院	藤 原 季 美 子

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
臨床薬学実習	近畿大学病院	木寺 康裕
	近畿大学病院	杉村 和喜子
	近畿大学病院	角野 雄亮
	近畿大学病院	川口 明範
	近畿大学病院	平川 真吾
	近畿大学病院	吉年 正宏
	近畿大学病院	浅野 肇
	近畿大学病院	宇野 清美
	近畿大学病院	北井 見和
	近畿大学病院	宇津木 仁美
	近畿大学病院	藤本 伸一郎
	近畿大学奈良病院	平田 敦士
	近畿大学奈良病院	林友典
	近畿大学奈良病院	落合 孝充
	近畿大学奈良病院	福井 愛子
総合薬学演習	近畿大学奈良病院	秦島 玲和
	近畿大学奈良病院	谷悠里介
総合演習2	近畿大学奈良病院	能登 啓介
	近畿大学奈良病院	岡本 広世
	近畿大学奈良病院	太田 涼介
	薬学部・薬学総合研究所	専任教員
	薬学部・薬学総合研究所	専任教員

そ の 他

(1) リメディアル授業について

薬学を学ぶためには「化学」と「生物」の基礎学力が必要不可欠となります。しかし、入学者の中には、高校で「化学」あるいは「生物」を履修していなかった人、履修はしたけれども受験科目でなかったために深く勉強せず、学力が十分に備わっていない人が多く見受けられます。そこで、両科目の基礎学力を補う目的で新学期開始と同時に「リメディアル講義」を開講しています。はじめに専任教員による本講義を全員履修（必須）し、講義終了後の試験結果から、さらに高校教諭によるリメディアル講義の受講者が判定されます。該当者は必ず履修しなければなりません。

(2) 基礎ゼミについて

医療の高度化やチーム医療及び医薬分業の推進により、薬剤師にはこれまで以上に高い能力が求められています。社会の要請に応えられる薬剤師となるためには、自ら問題を発見し、情報を検索・収集、また処理し、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要となります。そのため基礎ゼミでは、受動的な学習ではなく、自らが能動的な態度で学習する習慣を身につけることを目的として、少人数、ゼミナール形式で行います。グループで提起された課題について、発表・討議を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養い、主体的に学習しなければならないことを認識し、読む、調べる、書く、まとめる、話す、発表する、というコモンベーシック教育を行います。したがって、講義時間内だけでなく、放課後等の空き時間も利用して自主的に学習しなければなりません。

また、この授業は教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生活が円滑に送れるようになるための第一歩と位置づけています。

(3) ヒューマニズム教育・医療倫理教育について

薬剤師として求められる基本的な資質として、「豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する」ことが求められています。

医療薬学科では、ヒューマニズム教育・医療倫理教育に対応する科目として、「薬学概論（1年前期）」「早期体験学習（1年通年）」「生命倫理（2年前期）」「医薬連携学習（4年前期）」「ファーマシーティカルケア（4年前期）」「フィジカルアセスメント（4年前期）」「臨床医学概論（4年後期）」「実務実習事前学習（4年後期）」「臨床薬学実務実習（4年後期～5年後期）」「地域医療（6年前期）」を開講しています。

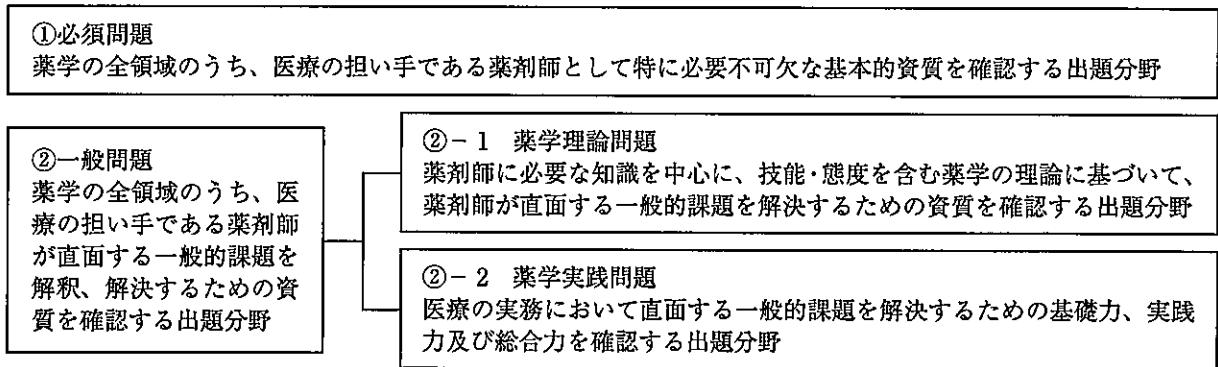
(4) 薬剤師国家試験について

本学の医療薬学科（6年制）を卒業すれば、学士（薬学）の学位が授与され、薬剤師国家試験の受験資格が得られます。

現在、この国家試験は年1回、2月下旬～3月初旬に行われており、卒業見込みで出願できますが、卒業資格を取得しなければ受験できません。6年制薬学部卒業者に対する新国家試験では、1) 基礎的な知識や技術、2) 高い倫理観、3) 医療人としての教養、4) 医療現場で通用する実践力などを有しているかを確認するために、下図に示すような出題区分で出題されます。

問題を大きく①必須問題と②一般問題に分け、一般問題はさらに薬学理論問題と薬学実践問題に分けて出題されます。医療薬学科では実務問題のほかに「複合問題」としてより総合的な知識を問う問題が出題されます。また、基礎薬学科目でも「複合問題」として、医療との関連性を重視した問題が出題されます。厚生労働省より発表されている国家試験の科目、問題区分、出題数を次の表に示しています。

《図：薬剤師国家試験の出題区分》



《表：薬剤師国家試験の科目、問題区分、出題数》

科 目	問 題 区 分				出題数計
	必 須 問 題	一 般 問 題	薬 学 理 論 問 題	薬 学 実 践 問 題	
物理・化学・生物	15 問	45 問	30 問	15 問 (複合問題)	60 問
衛 生	10 問	30 問	20 問	10 問 (複合問題)	40 問
薬 理	15 問	25 問	15 問	10 問 (複合問題)	40 問
薬 剤	15 問	25 問	15 問	10 問 (複合問題)	40 問
病態・薬物治療	15 問	25 問	15 問	10 問 (複合問題)	40 問
法規・制度・倫理	10 問	20 問	10 問	10 問 (複合問題)	30 問
実 務	10 問	85 問	—	20 問 + 65 問 (複合問題)	95 問
出題数計	90 問	255 問	105 問	150 問	345 問

(注) 第 104 回薬剤師国家試験から、以下のすべてを満たすことを合格基準としています。

なお、禁忌肢（薬剤師として選択すべきでない選択肢）の選択状況が加味されることになりました。

①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。（第 103 回までは全問題への配点の 65% 以上とされていました）

②必須問題について、全問題への配点の 70% 以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の 30% 以上であること（具体的には、物理・化学・生物：5 点以上、衛生：3 点以上、薬理：5 点以上、薬剤：5 点以上、病態・薬物治療：5 点以上、法規・制度・倫理：3 点以上、実務：3 点以上で合計 63 点以上が必要）。

(5) 薬学共用試験について

薬学共用試験とは、薬剤師免許を持たない学生が臨床現場での実務実習で調剤業務、服薬指導を行う時の基本的知識（知識・技能・態度）を有していることを証明するための試験です。コンピュータによる知識試験（CBT）310問と、技能、態度を評価する臨床能力試験（OSCE）6課題に合格しなければなりません。

薬学共用試験は4年次後半に実施され、これに合格しなければ4年次後期から行われる臨床薬学実務実習を履修することができません。

(6) 実務実習事前学習及び臨床薬学実務実習について

薬剤師を養成する教育では、4年次に学内での実務実習事前学習、4年次後期～5年次に22週間の臨床薬学実務実習を行うことが義務づけられています。実務実習事前学習では大学教員だけでなく、近畿大学病院や薬局の現役薬剤師が参加し指導が行われます。

薬局における実務実習では、保険調剤の実習はもとより、セルフメディケーションにおける薬剤師の関りあるいは在宅医療まで幅広い薬剤師業務を実習を通じて学習できます。一方、病院における実務実習では、生活習慣病からがん化学療法、感染症治療まで最新の薬物療法を実習を通じて学習できます。学生諸君はこの機会を最大限に活かして将来素晴らしい薬剤師となって活躍されることを祈っています。

(7) 臨床薬学実務実習の心得

平成22年度から薬学6年制のもとでの薬局および病院における実務実習が始まりました。大学の事前学習では講義、実習により各自が医療薬学の学習を行いましたが、実務実習では実際の患者さんを対象として医療における薬剤の適正使用を学びます。皆さんはOSCEによって、基本的な態度、技能は学習済みですが、医療現場において実際の患者さんや薬剤師、他の医療スタッフとの関りはこの実習から始まります。指導薬剤師の先生方、患者さんへの良いマナー、良いコミュニケーションが実習の成功・不成功の要です。

特に、病院は患者さんが来るところです。白衣を着用していれば、患者さんからは医療施設の先生に見えますから、行動・会話は慎重にし、以下の基本的な注意事項とともに、大学及び薬局・病院からの注意事項を厳守し、節度ある実習を行ってください。

（詳細については、学年進行に合わせて案内します。）

- ① 薬局、病院の規則を厳守すること。
- ② 指導者の指示に従い、不明な点は必ず指示を受け、自分勝手に処理しないこと。
- ③ 直接医薬品を扱うときは、間違いのないよう特に慎重にすること。
- ④ 白衣及び身のまわりは清潔にすること。
- ⑤ 実習期間中、早退・遅刻・休みをとるときは、必ず薬局、病院の指導者へ事前に届けること。
- ⑥ 病気・外傷・手指の化膿等がある場合は医薬品を汚染する恐れがあるので、必ず薬局、病院の指導者の指示を受けること。
- ⑦ 入退室時の挨拶は声に出してはっきり行うこと。（おはようございます、ありがとうございました、お先に失礼いたします、など）
- ⑧ 実習した内容は必ず実習記録に残すこと。

(8) 総合薬学研究1、2及び3について

医療薬学科では、幅広い専門知識を有する薬剤師養成を基本としていますが、さらには薬剤師の資質を活かして臨床で発生する様々な問題を解決する能力あるいは医薬品研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材の養成を目標としています。そのために、6年間のカリキュラムにおいて総合薬学研究1（3年後期）、2（4年前期）及び3（4年後期～6年前期）を設定しています。これらの履修は、各研究室又は分野に配属されたうえ、その研究室又は分野の教員の指導のもとで一連の研究を行います。

総合薬学研究 1 及び 2 では連続して 1 年間をかけて研究テーマの設定、研究準備からはじめ研究成果を得ることを目標にしています。また、総合薬学研究 3 においてさらに高度な研究を臨床での経験を踏まえて遂行するために必要な知識・技能・態度を修得することが大切です。

総合薬学研究 3 では、総合薬学研究 1 及び 2 で修得した知識、技能に基づいてさらに研究を発展させることを目標としており、所定の時期に総合薬学研究 1 ~ 3 で得られた研究成果をまとめ、発表します。

総合薬学研究 1 ~ 3 の単位はそれぞれ、別途薬学部で定める所定の方法で認定されます。

なお、研究室又は分野への配属については、各自の希望と 3 年前期までの成績により決定され、原則として総合薬学研究 1 ~ 3 を同一の研究室又は分野で指導を受けることになります。

(9) 総合演習 1 について

実践型薬剤師は、基礎知識、豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、現場で通用する実践力を身につける必要があります。特に、病院・薬局において参加型実習を実践する際には、あらかじめ知識、技能、態度を評価することが必須とされ、薬学教育においてモデル・コアカリキュラムが策定されました。改訂モデル・コアカリキュラムでは、薬学生が身につけるべき必須の能力が 10 項目の“薬剤師として求められる基本的な資質”としてあげられ、実践的な臨床能力をもつ、求められる薬剤師像が明確になっていきます。

総合演習 1 では、実務実習前に必要とされる知識を修得します。薬学共用試験センターが実施する CBT に出題される「改訂モデル・コアカリキュラム」の SBO のうち、1 ~ 4 年次に学んだことを総括的に学修し、CBT に合格するために相応した総合的な知識を身につけます。

授業方法は、月 1 回行う試験結果に基づいた 3 クラス構成とし、不得意分野の強化を図る演習選択方式とします。

(10) 総合薬学演習について

総合薬学演習では、総合演習 2 に先立ち、講義・演習を通じて基礎科目及び実務実習で得られた実践型の知識を定着させていきます。

6 年生は、本演習を受講し、前期期間中に基礎薬学（物理・化学・生物）分野の総復習を行い、同時に実務実習の復習を行い、臨床現場の様々な課題を理論的に読み解く力を身につけます。本演習では、それぞれの学力に併せて対策を行います。

また、この受講は、後期の総合演習 2 と連携し、国家試験合格に必要な基礎学力を身につけます。詳細については、4 月のガイダンスで詳しく説明します。

(11) 総合演習 2 について

実践型薬剤師の養成には、基礎知識、豊かな人間性、高い倫理観、医療としての教養、現場で通用する実践力を身につける必要があります。総合演習 2 では、大学での講義・薬局での参加型実習をふまえて、複合的な臨床現場での課題を、総合的に解決するための知識・能力を習得します。このような能力を積み重ねる事で、国家試験合格に相応しい総合的な知識・技能を身につける事が可能になります。

本演習は総合薬学演習で身についた基礎学力を元に、総合的な学力を育成していきます。月 1 回の試験を行い、その結果を基に必要に応じて補講を実施します。さらに、定期試験に相当する試験を 2 回実施し、単位の認定を行います。詳細については、4 月のガイダンスで詳しく説明します。

(12) 自校学習について

この科目は、近畿大学の学生として、本学の教育理念、教育目標・目的を理解し、自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、有意義な学生生活を過ごすことができるための動機づけを目指すものです。不定期的な開講となります。詳細については、その都度案内します。

創薬科学科

創薬科学科の学習について.....	45
進級基準・卒業資格の要件.....	46
共通教養科目・外国語科目表.....	48
専門科目表.....	50
令和2年度科目担当教員一覧.....	52
その他.....	61



創薬科学科の学習について

創薬科学科長

杉 浦 麗 子

近畿大学薬学部創薬科学科では、医薬品の創製・開発、管理、さらには食品、化粧品や公衆衛生分野に加え、臨床検査技師や公務員職など、多彩な薬学関連領域での研究、開発、行政などの分野でグローバルに活躍できる人材の育成を目標にしています。

21世紀に入り、ヒトゲノムの解読、ゲノム編集、核酸医薬品、オミックス技術、再生医療など、画期的な新薬を開発するための革新的な技術が猛烈な勢いで生まれ出されています。近畿大学創薬科学科においては、このような創薬研究の技術革新を取り入れた最新のカリキュラムを用意しました。

具体的には、医薬品素材を見出す薬用資源学、天然物化学、有機化学、薬の作用や相互作用を学ぶ薬理学、薬物治療学、さらにコンピューターを使ってドラッグデザインをする創薬設計科学、バイオテクノロジー、病気の原因に狙いを定めた分子標的治療薬を創りだすゲノム創薬科学、再生医療など、最先端の魅力的な講義、実習カリキュラムがラインナップされています。また、薬学領域以外にも機能性食品、香粧品領域、臨床検査学にも精通した人材を世に輩出することを目標にしたプログラムを設定しました。

入学されると教養科目と並行して薬学概論、基礎ゼミ、さらには多くの専門科目が開講されます。これらは皆さんの薬学研究に対する探究心を高めることを目的に入学と同時に開講されています。また、近畿大学では企業で求められる人材、国際社会でグローバルに活躍できる人材の育成をめざして、英語力、プレゼンテーション能力に磨きをかける演習科目も準備しています。そして3年生前期から卒業までの二年間近くにおよぶ卒業研究においては、創薬科学の真髄を学ぶとともに、研究活動を通して、新しいことを発見する研究の喜び、楽しさをエンジョイしていただきたいと思います。また、大学院の講義科目を学部四年次に履修する「早期履修制度」も導入しました。この制度により、大学院博士前期課程を早期修了し、博士後期課程に進学することが可能です。

創薬科学科では、革新的ながん治療薬開発をめざした最先端の研究プロジェクトや、世界トップクラスの大学であるカナダマギル大学での海外短期研修、革新的医薬品開発に取り組む最先端研究機関である医薬基盤研究所でのインターンシップなど、皆さんに素晴らしい研究環境を提供しています。創薬研究・開発のエキスパートとして、皆さんが社会に出て活躍できるように、薬学部、全教職員が一丸となって、皆さんの大学生活を応援しています。是非、みなさんも全力で取り組んでいただきたいと思います。

進級基準・卒業資格の要件及び授業科目【創薬科学科】

【平成30年度以降入学生適用カリキュラム】

進級基準

薬学部創薬科学科では各年次ごとに進級のための基準が設けられています。この基準どおりの単位を修得できなければ留年となります。

各年次への進級基準（必要単位数）は次のとおりです。

(1) 第1年次から第2年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していかなければならない。

ア 専門実習科目から 4 単位

(2) 第2年次から第3年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していかなければならない。

ア 共通教養科目（基礎ゼミ・専門基礎科目を除く） 10 単位
(必修3単位含む) から

イ 共通教養科目（基礎ゼミ） 2 単位

ウ 共通教養科目（専門基礎科目）から 12 単位

エ 外国語科目（英語及び初修外国語）から 13 単位

オ 専門講義必修科目及び専門英語から 9 科目

カ 専門講義選択必修科目の創薬化学系・生命薬科学系からそれぞれ 6 単位

キ 選択科目Ⅲ（新創薬科学研究コース1または2）から 1 科目

ク 専門実習科目から 9 単位

(3) 第3年次から第4年次へ進級するためには、次に定める単位数を修得していかなければならない。

ア 外国語科目（英語及び初修外国語） 14 単位
(必修10単位含む) から

イ 専門講義科目・専門英語から 44 科目

ウ 1年次・2年次・3年次開講専門実習科目から 14 単位

【平成 30 年度以降入学生適用カリキュラム】

卒業資格の要件

卒業できる資格は、4年間以上在学し、次の単位を修得することにより得られます。

科 目	卒 業 要 件	卒業必要単位数
共通教養科目	基礎ゼミ、専門基礎科目を除く共通教養科目から (必修 3 単位を含む) 基礎ゼミ(必修) 専門基礎科目(必修)	10 単位 2 単位 12 単位
外 国 語 科 目	英語及び初修外国語の中から (必修 12 単位を含む)	14 単位
専 門 科 目	必修科目 選択必修科目（28.5 単位）の中から ※ただし、創薬化学系から 12 単位、生命薬科学系から 10.5 単位とする。 選択科目 I (13.5 単位) の中から 選択科目 II (10.5 单位) の中から 選択科目 III (10 単位) の中から 専門英語 (9 単位) の中から 実習・研究 (必修 30 単位を含む)	22 単位 22.5 単位 4.5 単位 3 単位 4 单位 7.5 単位 30 单位
	合 計	93.5 単位
		131.5 単位

共通教養科目（専門基礎科目含む）・外国語科目表（1）
【平成30年度以降入学生適用カリキュラム】

創薬科学科

科 目 一 覧			単位数	開 講 年 次			備 考	
				1年次	2年次	3年次		
				前期:後期	前期:後期	前期:後期		
共 通 教 養 科 目	人間性・社会性科目群	人 権 と 社 会 1	2	○				
		人 権 と 社 会 2	2		○			
		暮 ら し の な か の 憲 法	2		○			
		現 代 社 会 と 倫 理	2	○				
		心 理 と 行 動	2		○			
		現 代 経 済 の 課 題	2	○				
		自 校 学 習	2	○				
		住みよい社会と福祉	2			○		
		教 養 特 殊 講 義 A	2	○				
教 養 科 目	国際性・地域性科目群・国・群国	生 活 環 境 科 学	2		○			
		国際化と異文化理解	2		○			
		教 養 特 殊 講 義 B	2	○				
	題課題解決設定科目・群問	基 础 ゼ ミ	2	○				
		基 础 数 学	2	○				
		情 報 科 学 入 門	2	○				
現 活 動 科 目 群 表	ス ポ ー ツ 科 目 群 表	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	1			○		
		日 本 語 の 技 法	2			○		
	ス ポ ー ツ 科 目 群 表	教 養 特 殊 講 義 C	2	○				
		生 涯 ス ポ ー ツ 1	1	○				
専 門 基 礎 科 目	英語	生 涯 ス ポ ー ツ 2	1		○			
		基 础 化 学	2	○				
		基 础 生 物 学	2	○				
		化 学 入 門	2	○				
		生 物 学 入 門	2	○				
		化 学 热 力 学	2		○			
外 國 語 科 目		基 础 分 析 化 学	2	○				
		英 語 演 習 1	2	○				
		英 語 演 習 2	2		○			
		英 語 演 習 3	2			○		
		英 語 演 習 4	2			○		
		オーラルイングリッシュ 1	1	○				
		オーラルイングリッシュ 2	1		○			
		オーラルイングリッシュ 3	1			○		
		オーラルイングリッシュ 4	1			○		
		T O E I C A	1					
		T O E I C B	1					
		T O E F L A	1					
		T O E F L B	1					
		ラ イ テ ィ ン グ A	1					
		ラ イ テ ィ ン グ B	1					

(注) ○印は必修、○印は選択を表す。

2~4年次配当

共通教養科目（専門基礎科目含む）・外国語科目表（2）

創薬科学科

科 目 一 覧		単位数	開講年次						備 考	
			1年次		2年次		3年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
外 国 語 科 目	ドイツ語総合1	1	○							3~4年次配当
	ドイツ語総合2	1		○						
	ドイツ語総合3	1			○					
	ドイツ語総合4	1				○				
	ドイツ語コミュニケーション1	1				○				
	ドイツ語コミュニケーション2	1					○			
	ドイツ語コミュニケーション3	1								
	ドイツ語コミュニケーション4	1								
	フランス語総合1	1	○							
	フランス語総合2	1		○						
	フランス語総合3	1			○					
	フランス語総合4	1				○				
	フランス語コミュニケーション1	1				○				
	フランス語コミュニケーション2	1					○			
	フランス語コミュニケーション3	1								
	フランス語コミュニケーション4	1								
	中国語総合1	1	○							3~4年次配当
	中国語総合2	1		○						
	中国語総合3	1			○					
	中国語総合4	1				○				
	中国語コミュニケーション1	1				○				
	中国語コミュニケーション2	1					○			
	中国語コミュニケーション3	1								
	中国語コミュニケーション4	1								

(注) ○印は選択を表す。

専門科目表(1)
【平成30年度以降入学生適用カリキュラム】

創薬科学科

科 目	単 位 数	開講年次								備 考	
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
必修科目	薬学概論	1.5	○								
	基礎有機化学	1.5	○								
	有機化学1	1.5		○							
	薬用資源学	1.5		○							
	基礎生化学	1.5		○							
	解剖組織学	1.5		○							
	人体生理学1	1.5		○							
	化学生習	1		○							
	生物学演習	1		○							
	分子薬理学	1.5			○						
	創薬インフォマティクス演習	1				○					
	薬物動態学	1.5					○				
	製剤学	1.5					○				
	グローバル創薬科学演習	1					○				
	創薬プレゼン実践演習 初級	1					○				
選択必修科目	専門科学英語演習	1						○			
	創薬プレゼン実践演習 上級	1						○			
選択必修科目	創薬化学系	薬学物理化学	1.5			○					
		有機化学2	1.5			○					
		分析化学	1.5		○						
		有機反応化学	1.5			○					
		構造分析化学	1.5			○					
		創薬物理化学	1.5			○					
		生物有機化学	1.5				○				
		メディシナルケミストリー	1.5			○					
		製剤工学	1.5				○				
選択科目	生命薬科学系	構造活性相関	1.5				○				
		微生物学	1.5			○					
		細胞生物学	1.5			○					
		生化学	1.5			○					
		バイオ・ゲノム薬科学	1.5			○					
		薬理学1	1.5			○					
		免疫学	1.5			○					
		ゲノム創薬と再生医療	1.5			○					
選択科目	選択I	薬理学2	1.5				○				
		化学生法学	1.5					○			
		物理学概論	1.5	○							
		薬学統計学	1.5			○					
		天然物薬化学会	1.5			○					
		食品薬学	1.5				○				
		食品衛生学	1.5					○			
		環境衛生学	1.5						○		
		漢方薬学	1.5						○		
		衛生化学	1.5						○		
		日本薬局方	1.5						○		

(注) ○印は必修、○印は選択を表す。

自由選択科目は、卒業・進級所要単位数に加算されない。

専門科目表 (2)

創薬科学科

	科 目	単位数	開講年次				備 考	
			1年次		2年次			
			前期	後期	前期	後期		
選 択 II	人体生理学 2	1.5		○			臨床検査技師関連科目	
	病態生理学 1	1.5		○			臨床検査技師関連科目	
	放射化学	1.5		○			臨床検査技師関連科目	
	病理学	1.5		○			臨床検査技師関連科目	
	病態生理学 2	1.5			○		臨床検査技師関連科目	
	生体成分分析化学	1.5			○		臨床検査技師関連科目	
	病態検査学	1.5				○	臨床検査技師関連科目	
選 択 III	新創薬科学研究コース1	1.5		○				
	新創薬科学研究コース2	1.5		○				
	インターンシップ	1.5			○			
	海外研修グローバル創薬コース	1.5					3~4年次配当	
	香粧品学	1.5			○			
	医薬品開発産学連携講座	1.5				○		
	実践科学英語演習	1				○		
専門英語科目	基礎生物学英語	1.5			○			
	基礎化学英語	1.5			○			
	生物学英語	1.5			○			
	化学英語	1.5			○			
	科学英語	1.5			○			
	プレゼンテーション英語	1.5			○			
自由選択科目	生命倫理	1.5		○			臨床検査技師関連科目	
	応用物理学	1.5		○			臨床検査技師関連科目	
	物理学実習	1.5			○		臨床検査技師関連科目	
	疾患と薬物治療法1	1.5			○		臨床検査技師関連科目	
	臨床検査学	1.5			○		臨床検査技師関連科目	
	臨床検査学総論1	2			○		臨床検査技師関連科目	
	疾患と薬物治療法2	1.5				○	臨床検査技師関連科目	
	創薬科学実習4	2				○	臨床検査技師関連科目	
	臨床生理学	1.5				○	臨床検査技師関連科目	
	臨床検査学総論2	2				○	臨床検査技師関連科目	
	臨床検査学総論実習	4					○	
	臨床化学実習	3					○	
	臨床生理学実習	4					○	
実習科目	情報科学実習1	1	◎					
	情報科学実習2	1		◎				
	基礎薬科学実習	2		◎			臨床検査技師関連科目	
	創薬科学実習1	2			◎		臨床検査技師関連科目	
	創薬科学実習2	3			◎		臨床検査技師関連科目	
	創薬科学実習3	5				◎	臨床検査技師関連科目	
	卒業研究	16				◎		

(注) ◎印は必修、○印は選択を表す。

自由選択科目は、卒業・進級所要単位数に加算されない。

令和2年度 共通教養科目（専門基礎科目含む）担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
人 権 と 社 会 1・2	人 権 問 題 研 究 所	西 村 秀 樹
人 権 と 社 会 1	全 学 共 通 教 育 機 構	藤 伸 樹
暮 ら し の な か の 憲 法	全 学 共 通 教 育 機 構	廖 修 雅
現 代 社 会 と 倫 理	全 学 共 通 教 育 機 構	森 本 聰
心 理 と 行 動	全 学 共 通 教 育 機 構	中 道 希 容
現 代 経 済 の 課 題	全 学 共 通 教 育 機 構	仲 井 翔 夫
自 校 学 習	薬 学 部	中 村 武 男
	薬 学 部	松 野 純 一
	薬 学 部	大 内 秀
	薬 学 部	多 賀 淳 幸
	薬 学 部	和 田 哲 己
住みよい社会と福祉	全 学 共 通 教 育 機 構	久 保 己 宏
教 养 特 殊 講 義 A	法 学 部	神 田 薫 晃
	薬 学 部	真 砂 博
	薬 学 部	田 中 薫 夫
生 活 環 境 科 学	薬 学 部	中 村 武
国際化と異文化理解	薬 学 部	真 砂 薫
	薬 学 部	フィゴーニ ウイリアム
	薬 学 部	田 中 晃
基 础 ゼ ミ	薬学部・薬学総合研究所	専 任 教 員
	理 工 学 部	高 崎 久 功
	薬 学 部	仲 西 弘
基 础 数 学	薬 学 部	角 谷 弘
	薬 学 部	前 川 弘
	薬 学 部	遠 藤 一 弘
キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	薬 学 部	木 下 弘
	薬 学 部	山 佐 弘
	薬 学 部	八 木 章
情 報 科 学 入 門	薬 学 部	木 下 充
	薬 学 部	八 木 浩 子
	薬 学 部	軒 由 美
日 本 語 の 技 法	全 学 共 通 教 育 機 構	都 築 正
	經 営 学 部	田 邦 和
	經 営 学 部	熊 本 秀
生 涯 ス ポ ーツ 1・2	經 営 学 部	楠 本 忠
	經 営 学 部	橋 田 恵
	經 営 学 部	村 上 俊
	經 営 学 部	山 内 章 裕
	經 営 学 部	田 中 ゆ ふ
	經 営 学 部	

令和2年度 共通教養科目（専門基礎科目含む）担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
生涯スポーツ1・2	経営学部	橋本剛幸
	経営学部	田中ひかる
	経営学部	西田順一
	経営学部	中井久純
	経営学部	池川哲史
	経営学部	大前拓
	経営学部	鳥和成
	経営学部	辻田佳保里
	経営学部	寺田進志
	経営学部	佐川和則
生涯スポーツ1	経営学部	光山秀行
	経営学部	時本昌樹
	経営学部	小林未季子
	経営学部	谷所慶
	経営学部	川野裕姫子
生涯スポーツ2	経営学部	三村覚
	薬学部	西脇敬二
	薬学部	山本知雄
	薬学部	和田哲幸
	薬学部	川瀬篤史
基礎生物学	薬学部	船上仁範
	薬学部	船深喜良
	薬学部	脇敬二
	薬学部	山西脇雄
	薬学部	佐知雄
基礎生物学	薬学部	和田哲幸
	薬学部	川瀬篤史
	薬学部	船上仁範
	薬学部	船深喜良
	薬学部	脇敬二
化学入門	薬学部	山西脇雄
	薬学部	本佐知雄
	薬学部	和田哲幸
	薬学部	川瀬篤史
	薬学部	船上仁範
生物学入門	薬学部	深尾亜喜良
	薬学部	脇敬二
	薬学部	山西脇雄
	薬学部	本佐知雄
	薬学部	和田哲幸
化学熱力学	薬学部	川瀬篤史
	薬学部	船上仁範
	薬学部	船深喜良
	薬学部	脇敬二
	薬学部	西脇敬二
基礎分析化学	薬学部	鈴木茂生
	薬学部	木山佐知雄
	薬学部	本山佐知雄

令和2年度 外国語科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
英 語 演 習 1・2	薬 学 部	眞 砂 薫
	薬 学 部	田 中 博 晃
英 語 演 習 3・4	薬 学 部	廣 重 尚 実
	薬 学 部	久 保 正 人
オーラルイングリッシュ 1・2	薬 学 部	ルドルフ ジュリアーン
	薬 学 部	フィゴーニ ウィリアム
オーラルイングリッシュ 3・4	薬 学 部	シェーン リー チ
T O E I C A・B	薬 学 部	木 南 法 子
T O E F L A・B	薬 学 部	清 水 綾 香
ライティング A・B	薬 学 部	小 板 裕 美
ド イ ツ 語 総 合 1・2	薬 学 部	三 宅 博 子
	理 工 学 部	近 藤 悟
ド イ ツ 語 総 合 3・4	薬 学 部	酒 井 友 里
ドイツ語コミュニケーション 1	経 営 学 部	トーマス シュピングル
ドイツ語コミュニケーション 2	理 工 学 部	河 野 英 二
フ ラ ン ス 語 総 合 1・2	理 工 学 部	北 野 文 英
フ ラ ン ス 語 総 合 3・4	経 済 学 部	中 所 聖 一
フランス語コミュニケーション 1・2	文 芸 学 部	松 村 博 史
	法 学 部	阿 部 慎 太 郎
中 国 語 総 合 1・2	経 営 学 部	陳 学 雄
	経 営 学 部	飯 塚 君 穂
中 国 語 総 合 3	理 工 学 部	小 出 敦
中 国 語 総 合 4	理 工 学 部	村 田 浩 浩
中国語コミュニケーション 1・2	法 学 部	畠 忍

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
薬 学 概 論	薬 学 部	杉 浦 麗 子
	薬 学 部	岩 城 正 宏
	薬 学 部	川 畑 篤 史
	薬 学 部	中 村 武 夫
	薬 学 部	木 鈴 茂 生
	薬 学 部	西 仲 功 志
	薬 学 部	山 中 隆 三
	薬 学 部	邊 元 弘 弘
	薬 学 部	前 川 智 一
	薬 学 部	遠 藤 雄 弘
	薬 学 部	木 下 充 也
	薬 学 部	村 田 和 紀
	薬 学 部	長 井 章 師
	薬 学 部	外 部 弘
	薬 学 部	前 川 智 文
	薬 学 部	石 川 洋 一
	薬 学 部	遠 藤 雄 伸
	薬 学 部	藤 原 俊 伸
	薬 学 部	山 本 哲 志
	薬 学 部	船 上 篤 篤
	薬 学 部	田 仁 篤 篤
基 础 有 機 化 学	薬 学 部	川 前 敬 二
有 機 化 学 1	薬 学 部	石 川 雄 二
薬 用 資 源 学	薬 学 部	遠 藤 知 雄
基 础 生 化 学	薬 学 部	藤 原 幸 由
解 剖 組 織 学	薬 学 部	山 本 博 伸
人 体 生 理 学 1	薬 学 部	船 上 介 伸
化 学 演 習	薬 学 部	田 仁 伸
生 物 学 演 習	薬 学 部	和 田 哲 功
生 分 子 薬 理 学	薬 学 部	森 山 亮 介
創薬インフォマティクス演習	薬 学 部	船 佐 俊 伸
	薬 学 部	原 烟 功
	薬 学 部	川 伸 介 史
	薬 学 部	仲 多 功
	薬 学 部	多 賀 淳
	薬 学 部	三 田 邦 二
	薬 学 部	西 脇 二
	薬 学 部	中 村 真 也
	薬 学 部	山 村 哲 志
	薬 学 部	本 口 富 美 子
薬 理 学 1	薬 学 部	瀬 田 篤 史
薬 物 動 態 学	薬 学 部	島 田 紘 明
製 剤 学	薬 学 部	長 井 紀 章

令和2年度 専門科目担当教員一覧

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
ゲノム創薬と再生医療	薬 学 部	杉 浦 麗 子
	薬 学 部	佐 藤 亮 介
	薬 学 部	関 口 富 美 子
病態生理学 2	薬 学 部	原 雄 大
化学療法学	薬 学 部	松 野 純 男
薬学統計学	薬 学 部	田 村 和 也
天然物薬化学生	薬 学 部	松 野 純 男
放射化学生	薬 学 部	多 賀 淳 文
生体成分分析化学生	薬 学 部	二 宮 清 文
食品薬学生	薬 学 総 合 研 究 所	遠 藤 雄 一
漠方薬学生	薬 学 部	川 崎 直 人
衛生化学生	薬 学 部	緒 方 彦 文
日本薬局方	薬 学 部	多 吉 隆 淳
香粧品学	薬 学 部	吉 井 嗣 功
物理学概論	原 子 力 研 究 所	堀 口 哲 男
病理学	薬 学 部	西 田 三 寛
食 品 衛 生 学	薬 学 部	椿 川 直 人
環 境 衛 生 学	薬 学 部	川 川 直 人
臨 床 検 查 学	薬 学 部	三 田 村 子
新創薬科学研究コース1	薬 学 部	専 任 教 員
新創薬科学研究コース2	薬 学 部	専 任 教 員
インターンシップ	薬 学 部	仲 西 功 弘
海外研究グローバル創薬コース	薬 学 部	前 川 智 一
薬 学 部	遠 藤 雄 一	
薬 学 部	杉 浦 麗 子	
薬 学 部	高 崎 恒 介	
薬 学 部	佐 藤 亮 介	
基礎生物学 英語	薬 学 総 合 研 究 所	森 山 博 由
基礎化学 英語	薬 学 部	中 村 光 光
生物学 英語	薬 学 部	島 田 紘 明
化学生 英語	薬 学 部	山 本 哲 志
科 学 英 語	薬 学 部	真 田 紗 薫
科 学 英 語	薬 学 部	田 中 博 晃
プレゼンテーション英語	薬 学 部	久 保 正 人
		フィゴーニ ウィリアム

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
応用物理学	原子力研究所	芳原新也
	薬学生部	船上仁範
	薬学生部	北路光一
	薬学生部	細見徹
	薬学生部	大鳥俊
	薬学生部	石渡知二
	薬学生部	井上聰美
	薬学生部	横山功也
生物学実習	原子力研究所	仲芳新也
物理学実習(臨床検査技師)	原子力研究所	原芳新也
疾患と薬物治療法1	薬学生部	田升三
疾患と薬物治療法2	薬学生部	田升三
病態検査学	薬学生部	田子邦成
臨床検査学	近畿大学病院	田和成
臨床検査学総論1	近畿大学病院	田和成
臨床検査学総論2	近畿大学病院	田和成
臨床検査学総論実習	近畿大学病院	田和成
臨床化学実習	近畿大学病院	田和成
臨床生理学実習	近畿大学病院	田和哲成
情報科学実習1	薬学生部	木下幸弘
	薬学生部	木充浩
	薬学生部	木浩弘
	薬学生部	木充弘
	薬学生部	木敬二
	薬学生部	木也
	薬学生部	木男志
	薬学生部	木純隆
	薬学生部	木敏也
	薬学生部	木俊元
	薬学生部	木伸三
	薬学生部	木智弘
	薬学生部	木雄邦
	薬学生部	木和子
情報科学実習2	薬学生部	藤原邊淳
	薬学生部	藤賀弘
	薬学生部	藤智雄
	薬学生部	藤邦和
	薬学生部	村田清文
基礎薬科学実習	薬学生部	宮田子也
	薬学生部	宮田也
	薬学生部	宮田一
	薬学生部	宮田和
	薬学生部	宮田文

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
基礎薬科学実習	薬学部	船上仁範
	薬学部	石川文洋
	薬学部	山本哲志
	薬学部	中村光
	薬学部	深尾喜良
	薬学部	原雄大
	薬学部	高島克輝
	薬学部	島倉里生
	薬学部	鈴木茂三
	薬学部	田邊元弘
	薬学部	遠藤和也
	薬学部	木下田
	薬学部	長井紀章
	薬学部	石川洋文
創薬科学実習 1	薬学部	中山知雄
	薬学部	大竹裕子
	薬学部	高島輝里
	薬学部	島倉知里
	薬学部	杉浦麗子
	薬学部	谷角晃司
	薬学部	森川生伸
	薬学部	藤原俊伸
	薬学部	前川智弘
	薬学部	森山博由
	薬学部	二宮清文
	薬学部	船仁範
	総合薬学研究所	中村恭子
	総合薬学研究所	高崎恒光
創薬科学実習 2	薬学部	中原佐介
	薬学部	佐藤亮介
	薬学部	深尾喜良
	薬学部	西田三升
	薬学部	岩城正宏
	薬学部	川畠篤史
	薬学部	中村武夫
	薬学部	川崎直人
	薬学部	松野純男
	総合薬学研究所	中村正人
	薬学部	西田直人
	薬学部	城畠宏
	薬学部	川畠史夫
	薬学部	崎直人
創薬科学実習 3	薬学部	野純男

令和2年度 専門科目担当教員一覧

科 目	担 当 教 員	
	所 属	氏 名
創薬科学実習3 創薬科学実習4 卒業研究	薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 高度先端総合医療センター 原子力研究所 原子力研究所 原子力研究所 原子力研究所 原子力研究所 原子力研究所 原子力研究所 原子力研究所 薬学部 薬学部 薬学部 薬学部 薬学・薬学総合研究所	中山 隆志 関口 富美子 川瀬 篤史 椿正 寛 坪田 真帆 島田 紘明 原田 雄大 武田 朋也 中村 浩 細野 真 山西 弘城 松田 外志朗 堀口 哲男 若林 源一郎 芳原 新也 山田 崇裕 杉山 亘 伸西 功 多賀 淳子 三田村 邦子 山本哲志 専任教員

そ の 他

(1) リメディアル授業について

薬学を学ぶためには「化学」と「生物」の基礎学力が必要不可欠となります。しかし、入学者の中には、高校で「化学」あるいは「生物」を履修していなかった人、履修はしたけれども受験科目でなかったために深く勉強せず、学力が十分に備わっていない人が多く見受けられます。そこで、両科目の基礎学力を補う目的で新学期開始と同時に「リメディアル講義」を開講しています。はじめに専任教員による本講義を全員履修（必須）し、講義終了後の試験結果から、さらに高校教諭によるリメディアル講義の受講者が判定されます。該当者は必ず履修しなければなりません。

(2) 基礎ゼミについて

著しいスピードで進歩する最先端の科学技術を駆使できる創薬研究者・技術者となるためには、自ら課題を見つけ、情報を検索・収集、また処理し、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要となります。そのため基礎ゼミでは、受動的な学習ではなく、自らが能動的な態度で学習する習慣を身につけることを目的として、少人数、ゼミナール形式で行います。グループで提起された課題について発表・討議を通じて論理的思考力、表現力、批判力を養い、主体的に学習しなければならないことを認識し、読む、調べる、書く、まとめる、話す、発表する、というコモンベーシック教育を行います。したがって、講義時間内だけでなく、放課後等の空き時間をも利用して自主的に学習しなければなりません。

また、この授業は教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生活が円滑に送れるようになるための第一歩と位置づけています。

(3) 新創薬科学研究コース

一年後期（新創薬科学研究コース1）、二年前期（新創薬科学研究コース2）において、それぞれ異なる研究室で最先端の実験あるいは科学英語論文の抄読会などに参加することにより、研究者としての基礎的技術、知識、あるいは科学英文読解能力などを培うことを目的としています。

学生は少なくとも一コマ／週以上の時間を研究室等において実験あるいは論文セミナー等に参加し、これらに積極的に取り組みます。研究室内で行われる発表会で履修期間内に最低一回はプレゼンテーションを行うとともに、半年間で学んだ実験技術、成果、あるいは論文セミナー等で理解した内容を教員の指導の下にレポートとしてまとめ、研究室等に提出します。また、半年間で学んだ内容を、基礎ゼミ形式によるポスターあるいはスライド発表を行います。履修学生と教員参加の討論時間も設けます。

これらをもって、評価が判定されます。

(4) 卒業研究について

1～3年にわたる講義・実習を通じて得られた知識・技能を活かし、さらに研究能力と問題解決能力を育むために、3年次と4年次においては、各研究室、部門あるいは薬学総合研究所（以下、研究室等）に配属された上、その研究室等の教員の指導のもと、与えられたテーマについて一連の研究を行う「卒業研究」を履修します。

まず、一年後期と二年前期に開講される「新創薬科学研究コース1・2」において複数の研究室等において体験研究をした後、3年前期から研究室に配属され、研究内容や先輩達の成果を学びながら実験を行います。

その後、約二年近くの期間、研究を重ね、4年次の2月にはその成果を公開の場で発表するとともに、卒業研究論文として提出します。さらに、配属された研究分野のみならず、研究者としての幅広い視野を持つことを目的として、薬学関連領域の最新のサイエンスについて学ぶ特別セミナーに参加（配属後から4年次の12月まで）し、レポートを作成します。卒業研究論文提出時に別添資料としてこのレポート

トを添付します。これらをもって成績が評価されます。

なお、研究室等への配属については、各自の希望と2年次までの成績により決定されます。

(5) 臨床検査技師国家試験について

創薬科学科の学生は、卒業に必要な単位に加えて、指定の科目及び近畿大学病院などの実習・講義を履修し、単位を取得することにより、臨床検査技師国家試験の受験資格が与えられます。ただし、病院での実習（4年次の約2ヵ月程度）の関係から、実習対象者は各年度数名のみとします。希望者が多数の場合は、専門科目の成績などにより対象者を選抜します。また、模擬試験などのサポートはしますが、国家試験合格には個人的にしっかり勉強する必要があります。履修に関する詳細については、随時案内します。

(6) 自校学習について

この科目は、近畿大学の学生として、本学の教育理念、教育目標・目的を理解し、自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、有意義な学生生活を過ごすことができるための動機づけを目指すものです。不定期的な開講となります、詳細については、その都度案内します。

研究室一覧

学科	研究室名	号館	階	教員
医療	生化学研究室	39	11	藤原俊伸 深尾亜喜良
医療	化学療法学研究室	39	11	中山 隆志 松尾 一彦 原 雄大
医療	薬物治療学研究室	39	11	西田 升三 椿 正寛 武田 朋也
医療	製剤学研究室	39	10	長井 紀章 大竹 裕子
創薬	分子医療・ ゲノム創薬学研究室	39	10	杉浦 麗子 高崎 輝恒 佐藤 亮介
創薬	薬用資源学研究室	39	9	遠藤 雄一 村田 和也 島倉 知里
医療	生物薬剤学研究室	39	9	岩城 正宏 川瀬 篤史 島田 紘明
医療	病態薬理学研究室	39	9	川畑 篤史 関口富美子 坪田 真帆
医療	臨床薬学部門 (臨床薬剤情報学分野)	39	6	高田 充隆 細見 光一 横山 聰
医療	臨床薬学部門 (医療薬剤学分野)	39	6	小竹 武
		旧本館	3	石渡 俊二
		39	6	井上 知美
医療	臨床薬学部門 (医薬品評価解析学分野)	31	1	北小路 學 大鳥 徹

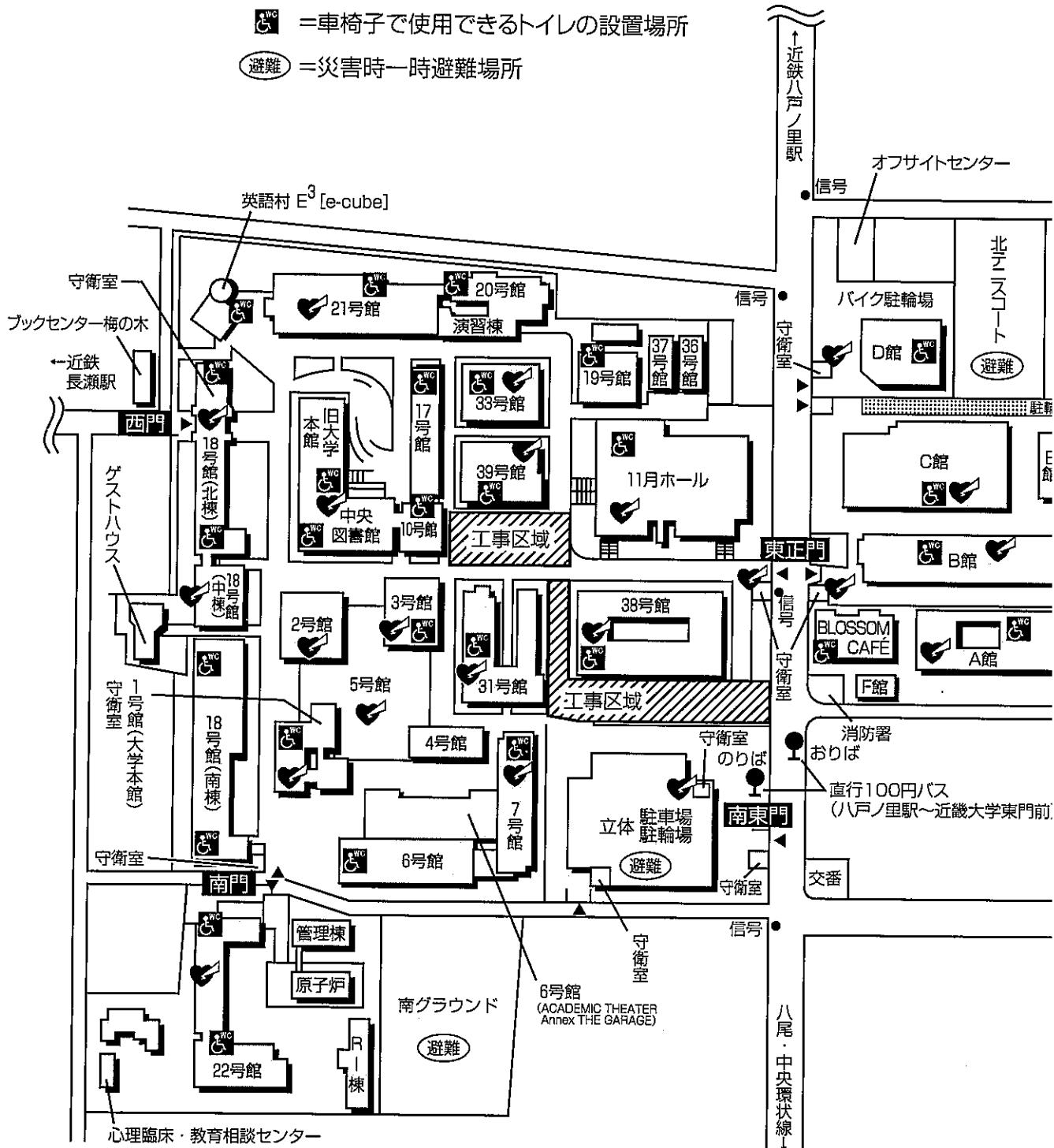
学科	研究室名	号館	階	教員
医療	教育専門部門	7	4	中村 武夫 大内 秀一 松野 純男 和田 哲幸 船上 仁範 八軒 浩子
創薬	医薬品化学研究室	38	10	前川 智弘 中村 光
医療	有機薬化学研究室	38	10	田邊 元三 石川 文洋 高島 克輝
医療	病態分子解析学研究室	38	10	多賀 淳 三田村邦子 山本 哲志
医療	公衆衛生学研究室	38	9	川崎 直人 緒方 文彦 中村 武浩
創薬	創薬分子設計学研究室	38	9	仲西 功 西脇 敬二 中村 真也
創薬	薬品分析学研究室	38	9	鈴木 茂生 木下 充弘 山本佐知雄
薬学 総合 研究所	機能性植物工学研究室	6	4	角谷 晃司
		38	9	中村 恭子
	食品薬学研究室	6	4	森川 敏生 二宮 清文
	先端バイオ医薬研究室	6	4	森山 博由
	教養・基礎教育部門	39	4	眞砂 薫 ウリアム フィゴー 田中 博晃

■近畿大学校舎配置図■(令和2年4月現在)

=AED(自動体外式除細動器)設置場所

 =車椅子で使用できるトイレの設置場所

避難 = 災害時一時避難場所



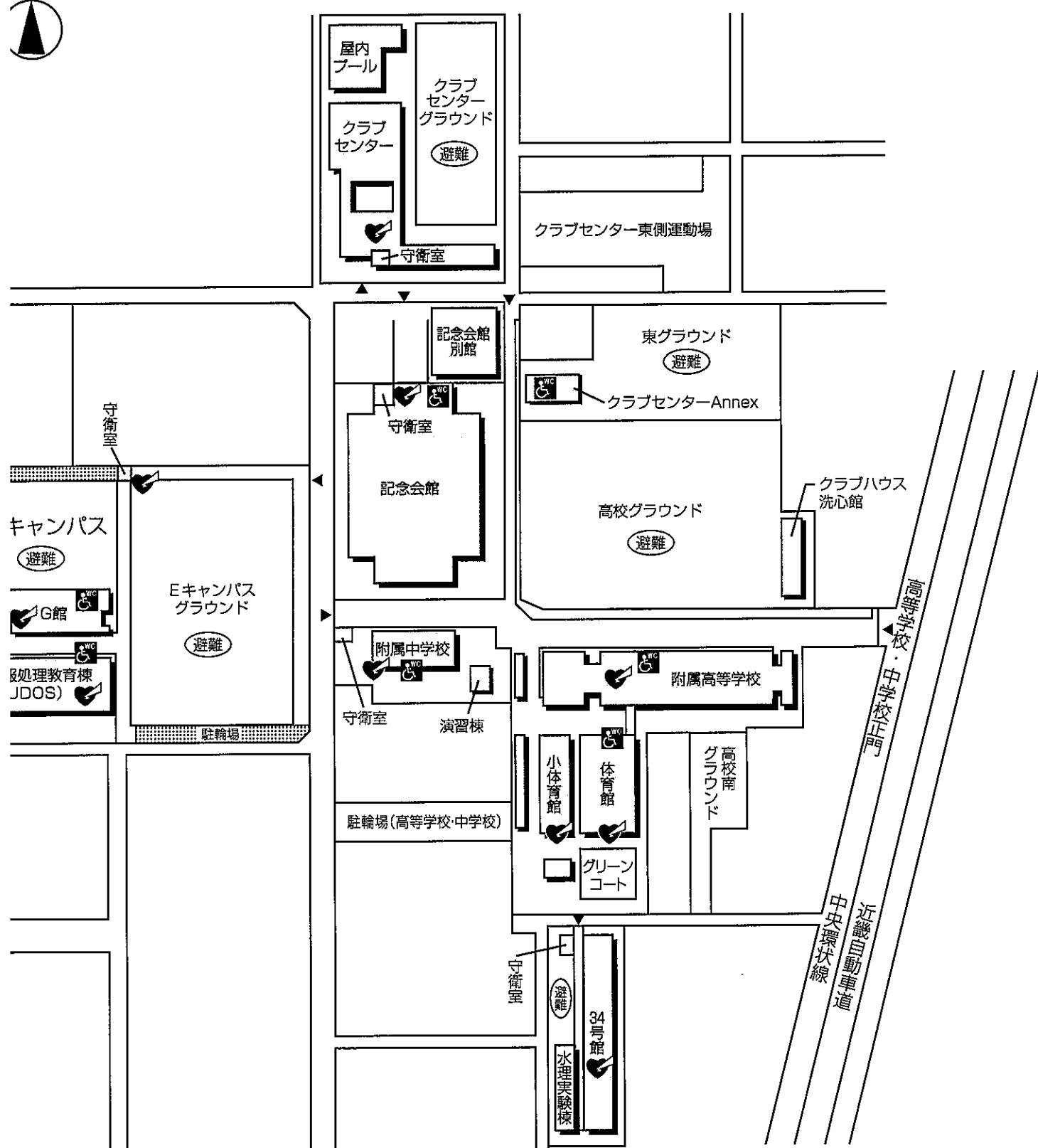
AEDとは

AEDとは、自動体外式除細動器のこと。心臓が一小刻みに震えて全身に血液を送り出すことができなくなる心室細動（致死的不整脈）を生じた場合に、心臓に電流を流すことにより正常に戻す（除細動）ための医療機器。

電極パッドを傷病者に付け、音声メッセージに従って操作する事で「除細動」が可能です。

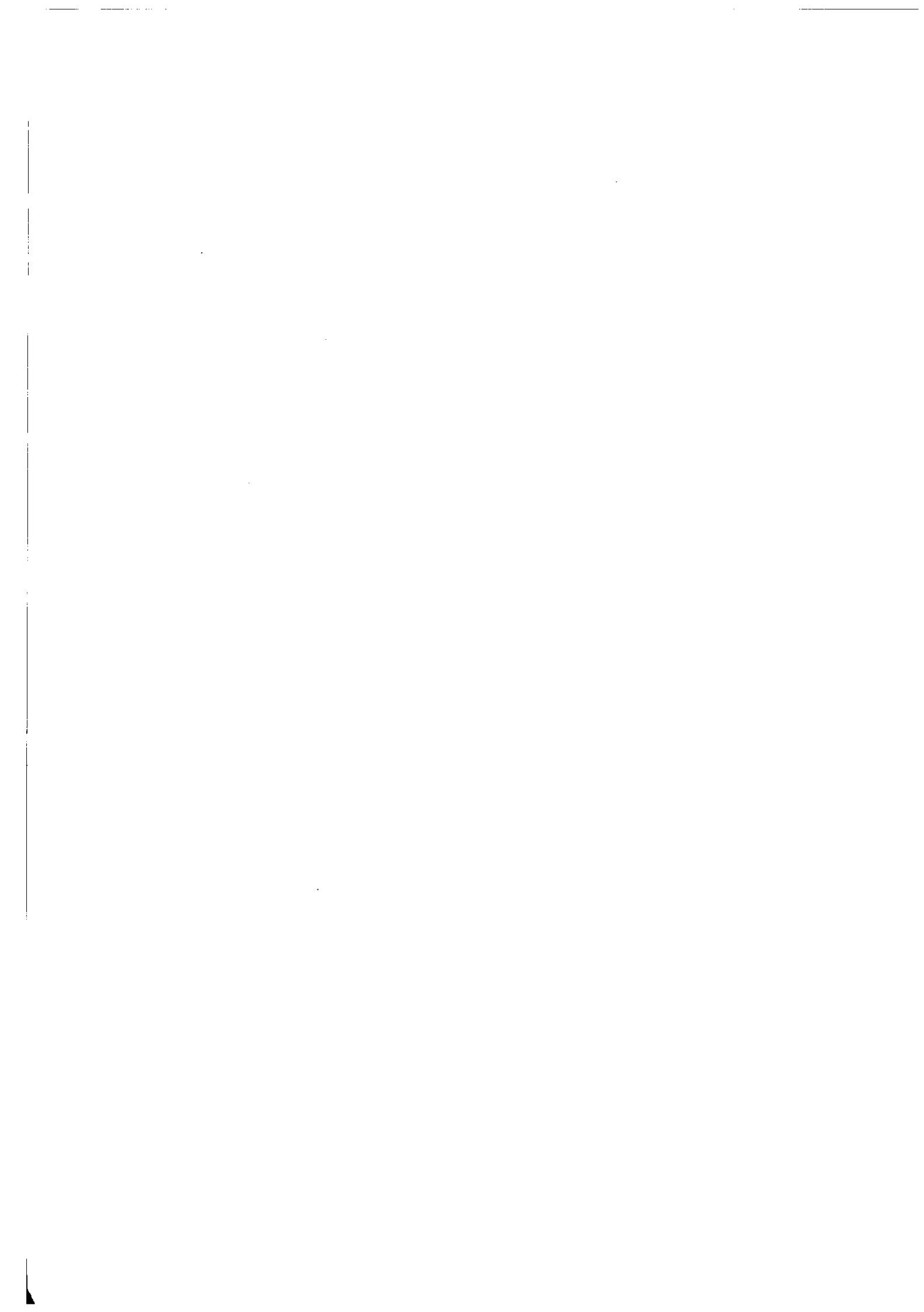
AED(自動体外式除細動器)設置場所

1号館(1階)	22号館(1階)	(KINDAIクリニック)
2号館(1階)	31号館(3階)	立体駐車場守衛室
3号館(1階)	33号館(1階)	A館(1階)
5号館(2階)	34号館(1階)	B館(1階)
7号館(1階)	38号館(1階)	C館(1階)
旧大学本館(1階、3階)	39号館(1階)	G館(1階)
18号館(1階)	11月ホール1階	KUDOS(1階)
21号館(2階)	3階、メディカルサポートセンター	記念会館(1階)



車椅子用トイレ設置場所

Club Center (1st floor)	17号馆 (1st floor)	31号馆 (1st floor)	C Hall (1st floor)
East Gate Guard Room			
West Gate Guard Room			D Hall (1st floor)
E Campus Bus Guard Room			G Hall (1st floor)
Bike Bus Stop Guard Room			English Village (1st floor)
E Campus Ground			KUDOS (1st floor)
			BLOSSOM CAFÉ (2nd, 3rd floors)
			Memorial Hall (1st floor)



薬学部履修要項 2020

2020.4 印刷発行

発行者 近畿大学 薬学部

編集 近畿大学 薬学部

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

電話番号 (06) 4307-3058



近畿大学